

令和8年度
授業計画
講義シラバス
(令和7年度入学生)



千葉県立農業大学校
農学科

目 次

1	教育理念	1
2	履修規程	2
3	講義要項	
(1)	教育課程表	7
(2)	時間割	8
(3)	農学科授業シラバス概要	
ア	教養科目	10
イ	専門教育科目	
(ア)	共通必須科目	27
(イ)	共通選択科目	52
(ウ)	専門選択科目	69
a	植物系科目	69
b	動物系科目	77
(4)	専攻実習	87
(5)	卒業論文	98

1 教育理念

千葉県立農業大学校(以下「大学校」という。)は、本県農業の発展に寄与する優れた農業の担い手及び指導者を育成することを目的としている。

ここで期待される担い手及び指導者とは、農業が自然の恵みを人間生活に還元する価値ある産業であるとする農業観に立つとともに、広い視野を持ち、時代の変革に速やかに対応できる高度な専門的知識・技術及び経営管理能力と客観的な判断力を有し、地域社会に貢献するために積極的に行動できる者である。

このため、大学校においては、校訓「志農創造」の理念に立ち、青年等のもつ無限の可能性の発掘と創造力の開発をめざし、教育の方針及び教育上の視点を次のとおり設定する。

(1) 教育方針

学科別教育方針は次のとおりとする。

ア 農学科

農業に関する実践的な知識、技術、経営管理能力を有する農業の担い手を育成する。

イ 研究科

農業に関する実践的かつ専門的な知識、技術、高度な経営管理能力を有する農業の担い手や指導者を育成する。

ウ 農業研修科

新たに就農しようとする者及び農業者が農業技術、農業経営に関する有益かつ実用的な知識・技術を習得するための研修を行う。

エ 機械化研修科

農業機械の安全かつ適正な取り扱いや効率的利用のための知識・技術習得するための研修を行う。

(2) 教育上の視点

次の視点に立ち教育を進めるものとする。

ア 広い視野を持つ豊かな人間性の形成

農業を、社会構造、経済構造及び農政の動向等、幅広い視点から捉え判断できるよう、豊かな人間性の形成をめざす。

また、寮生活の共同学習、集団生活を通して、自立と協調の精神を培う。

イ 高度な専門的知識・技術・経営管理能力の習得

農業における著しい技術革新に対応するため、高度な知識・技術並びにこれを駆使する経営管理能力の習得をめざす。

ウ 地域社会における指導者としての資質の養成

優れた農業経営者として、また地域社会における指導者として、その役割を果たすため、幅広い教養の会得と指導力を養成する。

エ 土に根ざした実践力のかん養

理論だけでなく、実践的な教育を通して、農業における創造のよろこびや可能性を追求できるような人間性を育む。

2 履修規程

(目 的)

第1条 この規程は、千葉県立農業大学校校則(以下「校則」という。)第19条第2項及び第48条の規定により授業科目の履修及び成績の評価に関する事項を定めるものとする。

(時間割並びに授業科目)

第2条 校長は授業計画と授業科目の時間割を年度の学期初めに公示する

(単位制)

第3条 学生は、個々の授業科目を履修し、当該授業科目に与えられた単位を取得するものとする。

(授業科目履修届)

第4条 授業科目のうち教養科目及び専門教育科目は、必ず履修しなければならない必修科目及び各学生の専門的な研究及び卒業に必要な単位数を考慮して選択される選択科目で構成する。

2 学生は、選択しようとする授業科目について、各学期の始めの授業科目に関する説明会の開催時に、授業科目履修届(別記1号ー1様式、第1号ー2様式)を校長に提出しなければならない。

3 授業科目履修届を提出した後の取消し又は変更は、原則としてこれを認めない。

(出席要件)

第5条 学生は、授業科目の単位を取得するためには、履修しようとする授業科目の授業時数の5分の4以上出席しなければならない。

校則抜粋

(欠席)

第13条 生徒は、疾病その他の理由により授業を欠席しようとする場合は、その理由を付した欠席届(別記第10号様式)を校長に提出しなければならない。この場合において、疾病による欠席が連続して7日以上にわたる場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、生徒が忌引、災害その他やむを得ない理由により授業に出席できない場合は、校長が別に定めるところにより、欠席の扱いとしない。

3 同一の教科において、30分以内の遅刻、早退又は一時退席を3回行った場合は、1回の欠席の扱いとする。

4 前項の規定にかかわらず、実習については、遅刻又は早退を行った場合は、原則として欠席の扱いとする。

(単位の認定方法)

第6条 授業科目の単位の認定は、前条の出席要件を満たしている者に対して筆記試験、論文、レポート、学習態度等により総合して認定するものとする。ただし、演習、実験、実習等の授業科目については、筆記試験を省略し、論文、レポート、出席状況又は学習態度によって認定することができる。

2 授業科目の成績の評価及び単位の認定は、次の各号に掲げる方法によって行うものとする。

(1) 成績の評価は、100 点法をもって行う。

(2) 成績の評価が 50 点から 100 点までの学生を認定とし、50 点未満の学生を不認定とする。

(3) 成績証明書及び学籍簿の記載は、次の表に掲げる標語をもって表示する。

判 定		認 定			不 認 定
評 価	点 数	100 点～80 点	79 点～65 点	64 点～50 点	49 点～0 点
	標 語	優	良	可	不可

3 本校における学業成績の評定平均値は、前項に規定する成績評価を用いて、次の計算式により算出するものとする。

※計算式 $(\text{優} \times 4 + \text{良} \times 3 + \text{可} \times 2) \div (\text{優の科目数} + \text{良の科目数} + \text{可の科目数})$

(技能審査成果の単位認定)

第7条 本校における技能審査の成果における単位認定の種類、対応科目、認定の単位数は、別表のとおりとする。この場合において、校長は、学生が別表の資格の欄に掲げる技能審査に合格し、資格を取得した場合は、当該学生からの申請に基づき、同表対応科目の欄に掲げる授業科目に同表技能単位の欄に掲げる単位数を認定することができる。

2 前項後段の認定を受けようとする学生は、技能審査の成果の単位認定申請書（別記第2号様式）を校長に提出しなければならない。

3 第1項後段の規定により認定することができる単位数は、5単位を限度とし、在学中における受検により合格した資格に限り認定を行うものとする。

4 同一の種類の技能審査で2つ以上の級等に合格した場合は、上位級の単位数を認定するものとする。

5 校長は、第1項後段の規定により単位を認定する場合は、当該単位に係る成績の評価は行わない。

6 校長は、第1項後段の規定により単位を認定した場合は、当該単位を卒業の認定に必要な単位に加算できるものとする。この場合において、当該認定に係る学生の学業成績記録に認定単位数、資格の種類及び合格日を記載するものとする。

(研究科における単位認定の特例)

第8条 本校研究科における科目単位を本校農学科在籍時に取得した場合は、研究科の単位として、当該学生からの申請に基づき、認定することができる。

2 前項の認定を受けようとする学生は、単位認定申請書（別記第3号様式）を校長に提出しなければならない。

3 第1項の規定により単位を認定する場合は、当該単位に係る成績は農学科在籍時に取得した評価とする。

(再履修)

第9条 学生は、単位の取得の認定が行われなかった授業科目について、単位を取得しようとする

場合は、再履修実施願（別記第 4 号様式）を校長に提出し、再履修をしなければならない。

- 2 単位の取得の認定が行われなかった授業科目がある者は、当該年度中又は翌年度以降に再度、評価を受けなければならない。
- 3 単位の取得の認定が行われなかった実習がある者は、当該年度中又は翌年度以降に再度、実習を行った後に評価を受けなければならない。

（筆記試験）

第 10 条 本校の筆記試験は、学生全員を対象に各学期末に行う定期試験及び授業科目の授業時間内で適宜な時期に行う臨時試験とするものとする。この場合において、実施日を少なくとも 7 日前に、学生に通告するものとする。

- 2 所定の期日に病気、事故その他のやむを得ない事由で筆記試験を受験できなかった者に対しては、追試験を行うものとする。
- 3 前項の追試験を受けようとする者は、速やかに追試験願（別記第 5 号様式）に、欠席届（別記第 6 号様式）及び医師の診断書、事故の証明書その他の欠席の理由を証明する書類を添えて、校長に提出しなければならない。

（受験上の注意）

第 11 条 筆記試験を受験する学生は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- （1）学生は、特別の指示がない限り、試験開始の 5 分前に所定の教室に入室すること。
- （2）特に指定された場合は指定の座席において受験すること。
- （3）受験に必要な物品以外は試験監督者の指示する場所に置くこと。
- （4）受験中は筆記用具類の貸借をしないこと。
- （5）試験開始後 30 分以上が経過しなければ退室してはならない。
- （6）30 分以上遅刻した者は、原則として受験することができない。
- （7）答案に学籍番号及び氏名の記載がない場合は無効になることがある。
- （8）試験時間が終了したとき、又は終了前に答案を作成し終わったときは、特に指示がない限り、教卓上に提出し、又は試験監督者に直接手渡して、静かに退室すること。

（不正行為）

第 12 条 筆記試験の受験中に不正行為があった場合は、直ちに答案を回収し、当該不正行為を行った学生に対して退室を命じる。この場合において、回収した答案は無効とする。

- 2 不正行為を行った学生は、校則第 28 条に規定する懲戒の対象とする。

（補 則）

第 13 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

（施行期日）

- 1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(千葉県農業大学校履修規程の廃止)

- 2 千葉県農業大学校履修規程は、廃止する。

附 則 (平成 26 年 3 月 7 日一部改正)

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

- 3 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

(附則一部改正)

- 4 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

(附則一部改正)

- 5 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

(附則一部改正)

- 6 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

(附則一部改正)

- 7 附 則 (令和 3 年 3 月 9 日一部改正)

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

- 8 附 則 (令和 5 年 12 月 7 日一部改正)

この規程は、令和 5 年 12 月 7 日から施行する。

- 9 附 則 (令和 5 年 12 月 25 日一部改正)

この規程は、令和 5 年 12 月 25 日から施行する。

- 10 附 則 (令和 6 年 1 月 31 日一部改正)

この規程は、令和 6 年 1 月 31 日から施行する。

- 11 附 則 (令和 7 年 2 月 14 日一部改正)

この規程は、令和 7 年 2 月 14 日から施行する。

- 12 附 則 (令和 7 年 6 月 18 日一部改正)

この規程は、令和 7 年 6 月 18 日から施行する。

- 13 附 則 (令和 7 年 10 月 10 日一部改正)

- 1 この規程は、令和 7 年 10 月 10 日から施行する。

- 2 下記 農学科の「資格」「対応科目」「技能単位」は、令和 8 年 3 月 31 日まで適用する。

資格：農業派遣実習（3 週間） 対応科目：農業派遣実習 技能単位：1

[別 表]

技能審査の成果の単位認定に関する基準

同一資格名で種別等が異なる資格を取得した場合、単位数の多い資格を認定する。
また、危険物取扱者（乙種）に関しては、複数の種を取得しても単位は1とする。

農学科

資格	対応科目	技能単位
毒物劇物取扱者（一般），（農業）	病理・昆虫学	2
危険物取扱者（乙種）	農業工学	1
日商簿記検定（3級）	農業会計論	1
日商簿記検定（1，2級）	農業会計論	2
農業簿記検定（1級）	農業会計論	1
日商PC検定文書作成，データ活用（3級）	教養基礎講座	1
日商PC検定文書作成，データ活用（2級）	情報処理概論Ⅱ	2
土壌医検定（3級）	土壌肥料概論	1
土壌医検定（2級）	土壌肥料概論	2
家畜商	畜産学概論	1
家畜人工授精師	家畜繁殖学	2
農業技術検定（2級）	キャリア基礎講座	1
農業技術検定（1級）	キャリア基礎講座	2
TOEIC（400点以上）	基礎英語会話	1
食品衛生責任者	食品加工実習	1

3 講義要項

(1) 教育課程表

千葉県立農業大学校校則(第18条関係)

教育課程表(農学科)(令和8年度)

令和7年度入学生(2年生)

科目群	科目	単位	時間	1年		2年		備考
				前期	後期	前期	後期	
教養科目	教養基礎講座	2	30	○				
	文 学	2	30		●			
	哲 学	2	30			○		
	法 学	2	30	○				
	経済学	2	30	○				
	社会学	2	30		●			
	数 学	2	30	(開講せず)				
	化 学	2	30	○				
	生物学	2	30	○				
	保健・体育実技	2	60	○		○		
	基礎英語会話	2	30		●			
	英語会話	2	30				●	
	小計	20	330					
		以上	以上					
専門教育科目	共通必修科目	生物化学実習	4	120	◎			
		農場実習	8	240	◎			
		国際農業実習	2	60		●		
		農業派遣実習	3	90	◎			
		キャリアサポート実習	4	120	◎			
		情報処理概論Ⅰ	2	30	○			
		作物・園芸学概論	2	30	○			
		植物防疫概論	2	30			○	
		土壌肥料概論	2	30	○			
		畜産学概論	2	30	○			
		農業経営・経済学概論	2	30		●		
		農業会計論	2	30		●		
		農業生産工程管理論	2	30			●	
		農業機械実習	3	90	◎			
		食品学	2	30			●	
		食品加工実習	3	90		◎		
		流通マーケティング論	2	30	○			
		キャリア基礎講座	2	30		●		
		小計	49	1140				
	共通選択科目	農業環境概論	2	30	○			
		生物統計学	2	30		●		
		農業工学	2	30			○	
		農業法律学	2	30		●		
		農業協同組合論	2	30			●	
		情報経営論	2	30			●	
		農業経営学	2	30			●	
		情報処理概論Ⅱ	2	30			○	
		農業史	2	30		●		
		農業気象学	2	30			○	
		新農業技術論	2	30			●	
		国際食料・農業事情論	2	30			●	
		園芸療法論	2	30			●	
		有害鳥獣対策講座	1	24			●	
		小計	12	180				
			以上	以上				

科目群	科目	単位	時間	1年		2年		備考
				前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	植物系科目	植物生理学	2	30			●	
		植物育種学	2	30			●	
		病理・昆虫学	2	30			●	
		土壌・肥料学	2	30		●		
		作物学	2	30		●		
		野菜園芸学	2	30			●	
		果樹園芸学	2	30			●	
		花き園芸学	2	30			○	
		小計	12	180				
			以上	以上				
	動物系科目	家畜育種学	2	30			○	
		家畜繁殖学	2	30			●	
		家畜生理学	2	30		●		
		家畜環境保全学	2	30			●	
		飼料学	2	30			●	
		酪農・肉牛	2	30			●	
		養豚	2	30		●		
		養鶏	2	30			●	
		小計	12	180				
			以上	以上				
	専攻実習		15	450			◎	
	卒業論文		4	120			◎	
	合計		112	2400				
			以上	以上				

○講義は、1単位15時間

○実習は、1単位30時間

○:前期

●:後期

◎:通年

(2) 時間割

	前期				
学年	令和 8 年度 農学科 2 年（令和 7 年度入学生用）				
時限	I	II	III	IV	V
時刻	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:15～17:00
月	SR 専攻実習・卒業論文 （各担当） 〔各専攻教室〕		SR 専攻実習・卒業論文 （各担当）〔各専攻教室〕 模擬農業経営演習 （山本・保坂） 〔指定農場〕		
火	SS 農業気象学 （宮田） 〔第3講義室〕	GE 保健・体育実技 （諏訪） 〔体育館・第3講義室〕	SS 農業工学 （池尻） 〔第3講義室〕	EG 哲学 （高橋） 〔第3講義室〕	
			SSP 花き園芸学 （田川（真）） 〔第2講義室〕R7入		
			SSA 家畜育種学 （瓦井） 〔第4講義室〕		
水	SR 専攻実習・卒業論文 （各担当） 〔各専攻教室〕		SR 専攻実習・卒業論文 （各担当） 〔各専攻教室〕		
木	SS 情報処理 概論Ⅱ（野尻） 〔パソコン室〕	SR 植物防疫概論 （宮井） 〔第3講義室〕R7入	SR 食品加工実習 （宮城・柴野・今井・山下（富）） 〔食品加工実験室・その他〕		HR 担任 〔第3〕
金	SR 専攻実習・卒業論文 （各担当） 〔各専攻教室〕		（就農・就職活動 専攻実習等補習）		
	GE 教養科目 SR 専門必修 SS 専門共通選択 SSP 植物系科目 SSA 動物系科目				
	R7入 令和7年度入学生用講座 ※ 時間割を変更する可能性があります。				

	後期				
学年	令和 8 年度 農学科 2 年（令和 7 年度入学生用）				
時限	I	II	III	IV	V
時刻	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:15～17:00
月	SR 専攻実習・卒業論文 （各担当） 〔各専攻教室〕		SS 農業経営学 （井月） 〔第3講義室〕	SSP 野菜園芸学 （江口） 〔第3講義室〕 SSA 飼料学 （伊藤） 〔第4講義室〕	
火	SSP 植物生理学 （永山） 〔第3講義室〕R7入	GE 英語会話 （石橋） 〔第2講義室〕R7入	SS 情報経営論 （溝田） 〔パソコン室〕	SSP 果樹園芸学 （吉田（明）） 〔第1講義室〕 R7入	
	SSA 養鶏 （山田） 〔第2講義室〕			SSA 酪農肉牛 （井上（貢）） R7入 〔第2講義室〕	
水	SSP 植物育種学 （中田） 〔第3講義室〕	SR 食品学 （柴野） 〔第3講義室〕	SR 専攻実習・卒業論文 （各担当） 〔各専攻教室〕		
	SSA 家畜環境保全学 （岡田） 〔第4講義室〕				
木	SS 新農業技術論 （藤井） 〔第3講義室〕	SS 国際食料農業 事情論（佐藤） 〔第3講義室〕	SS 園芸療法論 （多田） 〔第3講義室〕	SR 農業生産工程管理論 （田上（一）・田上（多）） 〔第3講義室〕	HR 担任 〔第3〕
金	SSP 病理昆虫学 （清水） 〔第3講義室〕	SS 農業協同組合論 （伊本） 〔第3講義室〕	SR 専攻実習・卒業論文 （各担当） 〔各専攻教室〕		
	SSA 家畜繁殖学 （渡辺） 〔第4講義室〕				
GE 教養科目 SR 専門必修 SS 専門共通選択 SSP 植物系科目 SSA 動物系科目					
R7入 令和7年度入学生用講座					
9/2（水）～4（金）		1単位、4コマ×3日	SS 有害鳥獣対策講座		

(3) 農学科授業シラバス概要

ア 教養科目

授業科目 (履修区分)	教養基礎講座 (教養科目・一般)	担当教員	山本 茂樹
対象年次	農学科1年	期別	令和7年度 前期
単位数	2単位	時間数	30時間
教育目標	農学を学ぶ上で必要な計算技術の基礎を学ぶとともに、近年における日本農業の魅力と課題について考察し理解を図る。		
授業内容	1 農学に求められることとは 2 農学に必要な計算技術 (I) 3 農学に必要な計算技術 (II) 4 農学に必要な計算技術 (III) 5 農学に必要な計算技術 (IV) 6 農学に必要な計算技術 (V) 7 農学に必要な計算技術 (VI) 8 農学に必要な計算技術 (VII) 9 日本農業の魅力について (世界的視野・識見から) 10 日本農業が抱える現状と課題・対策 (高齢化と担い手不足) 11 日本農業が抱える現状と課題・対策 (耕作放棄地) 12 日本農業が抱える現状と課題・対策 (TPP) 13 日本農業が抱える現状と課題・対策 (物価高騰) 14 日本農業が抱える現状と課題・対策 (気候変動) 15 農学に必要な計算技術及び日本農業の農業が抱える現状と課題・対策について習得確認 (期末試験) * 講義に臨むに当たって、テキストの事前学習・練習問題を各自、学習することが望ましい。		
テキスト	講義担当者作成小冊子 (教養基礎講座テキスト)		
成績評価の方法	期末試験・レポート・小テストと授業への参加・取り組みを総合的に評価する。		
備考	参考図書 農業と環境 (実教出版)		

授業科目 (履修区分)	文学 (教養科目・人文科学)	担当教員	芦木 亜彩湖
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	この授業では、主に400～600字程度の文章を書くことを通して、日本語表現能力を身につけることを目標とする。 文章の書き方の基礎的な知識を学んだ上で、自分のことを説明する説明文、物事を時系列に沿って説明する歴史文、テーマに関する意見文など、さまざまなタイプの作文を書くことで、自らの表現能力を磨く。 また、書くだけでなく、意見交換などで話す技能を向上させることも目標とし、授業後半ではディベートを行う。		
授業内容	1 ガイダンス・自己紹介 2 文章の書き方① ー正確な文章を書く 3 文章の書き方② ー自然な流れの文章を書く 4 文章の書き方③ ー説得力のある文章を書く 5 説明文を書く① ー自分の故郷の説明文 6 説明文を書く② ー好きな作品の紹介文 7 歴史文とは何か？ ー根拠を示して分かりやすい文章を書く 8 歴史文を書く① ー自分の趣味についての歴史文 9 歴史文を書く② ー自分の夢や目標についての歴史文 10 意見文を書く ー自分の意見を効果的に伝える 11 ディベート① ーディベートとは何か学ぶ 12 ディベート② ーディベートをするための準備をする 13 ディベート③ ーディベート本番 14 ディベート④ ーディベートの議題に対する意見文を書く 15 期末試験		
テキスト	必要に応じてプリントを配布。		
成績評価 の方法	期末試験と平常点によって評価する。 期末試験50%、平常点（提出物・授業態度）50%		
備 考	参考図書『わかりやすく書ける作文シラバス』（くろしお出版/2017年）		

授業科目 (履修区分)	哲学 (教養科目)	担当教員	高橋 克典
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
授業の目的 及び概要	「あなたは何のために生きているのですか?」と聞かれたら、皆さんは何と答えますか?そもそも自分とは一体何なのでしょう?それを過不足なく言葉にして表現することなど不可能に等しいのかもしれませんが。とはいえ、私たちは常にこのことを問いながら、生きていかなければならないともいえるのでしょ う。 知識として学ぶのではなく日常のテーマを通して自分で考える力を養う。また、人間の本音と建前に着目し普段あまり意識しない考え方のクセや前提をといなおす。		
授業の到達 目標	自立した一人の人間として、自分自身で考え、判断し、責任をもって行動する力を身につける。身近な問題を軸に置きながら、多角的に考える力を養うことを目指す。日常の出来事を深く捉える視点を得る。		
授業の方法	テーマ提示⇒個人で考える。 グループで共有。 全体で意見交換。 教員による整理と問いの提示。 ※正解を提示する授業ではなく、考える過程を重視する。		
授業内容	1 あなたの夢 2 なぜ人は悩むのか 3 自分とは何か 4 本当に自分で決めているのか 5 人はなぜ裏切るのか 6 恋愛は必要か 7 愛とはなにか 8 愛は自由か束縛か 9 お金と幸せ 10 幸福とは何か 11 なぜ不幸になるのか 12 人はなぜ働くのか 13 人生の意味とは何か。 14 期末試験・振り返り 15 レポート		
テキスト	授業毎に資料を配布する		
成績評価 の方法	講義内容取組 (30%)、課題レポート・小テスト (40%) 期末試験 (30%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	法学 (教養科目・社会科学)	担当教員	大島 大
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時間数	30時間
教育目標	憲法・民法等の個々の法律の知識に加え、法律的なものの考え方を習得する。		
授業内容	1回 「法」とは何か 法律・法について、その定義や歴史、分類など。 2回 憲法 1 わが国の憲法・立法（国会）。 3回 憲法 2 行政（内閣）・司法（裁判所）。 4回 憲法 3 基本的人権について、自由権。 5回 憲法 4 基本的人権の続きで、社会権、参政権など。 6回 刑法・刑事訴訟法 刑罰の種類や刑事裁判までの手続き。 7回 裁判 裁判所の種類、刑事裁判・民事裁判のながれ。 8回 民法 1 「人」とは何か。 9回 民法 2 「物」とは何か、所有権。 10回 民法 3 物権変動、登記・引渡しについて。 11回 民法 4 契約とは何か、契約の種類について。 12回 民法 5 契約が履行されなかった場合。時効。 13回 民法 6 親族法、夫婦・親子について。 14回 民法 7 相続法 相続とは何か。 15回 期末試験		
テキスト	使用しません。毎授業時にレジュメを配布する。 必要のあるときに随時紹介する。		
成績評価 の方法	定期試験を実施する。評価配分は以下の通り。 定期試験（50%）、授業への参加・取組（50%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	経済学 (教養科目・社会科学)	担当教員	渡邊 修朗
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	1 社会人として必要な政治・経済に関する基礎的な知識を身に付ける。 2 政治経済に関する学習を通して、現代社会の動きをみる視点を養い、 将来のビジネスに関する展望を持てるようにする。		
授業内容	1回 市場経済と競争 【事前学習】テキスト第1章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 2回 市場経済と資源の最適配分 【事前学習】テキスト第2章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 3回 市場経済と価格 【事前学習】テキスト第3章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 4回 市場経済の成立する条件 【事前学習】テキスト第4章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 5回 近代以前の社会 【事前学習】テキスト第5章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 6回 近代国家の成立と市場経済 【事前学習】テキスト第6章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 7回 自由主義経済の世界 【事前学習】テキスト第7章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 8回 資本主義の成立 【事前学習】テキスト第8章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 9回 20世紀の危機 【事前学習】テキスト第9章を読んでおくこと		

	【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 10 回 マクロ経済政策と戦後の世界 【事前学習】テキスト第 10 章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 11 回 戦後の日本経済Ⅰ（戦後復興期～高度成長期） 【事前学習】テキスト第 11 章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 12 回 戦後の日本経済Ⅱ（安定成長期～バブルの崩壊） 【事前学習】テキスト第 12 章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に対して考察を行い、課題を提出 13 回 新自由主義経済論 【事前学習】テキスト第 14 章を読んでおくこと 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 14 回 転換期の世界経済 【事前学習】事前に指示 【事後学習】講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出 15 回 期末試験
テキスト	「教養としての政治と経済」（渡辺修朗 学文社）
成績評価の方法	成績評価の点数配分については以下のとおりとする 定期試験（50%）、課題（30%）、授業への参加（20%）から判断
備考	

授業科目 (履修区分)	社会学 (教養科目)	担当教員	島村 賢一
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	社会学の基本的な考え方や方法を理解し、農業関係者として様々な社会現象を深く広く洞察できる能力を養い、人間がいかに地球環境において他者と共に生きる存在であるのかを把握できるようにする。		
授業内容	1 社会学とは何かー社会学入門 2 社会学の歴史①ー近代社会の成立とコント 3 社会学の歴史②ースペンサーとマルクス 4 社会学の歴史③ーヴェーバーとデュルケーム 5 社会調査法①ー社会調査の基礎論 6 社会調査法②ー量的調査 (アンケート調査) 7 社会調査法③ー質的調査 (フィールドワークとヒアリング) 8 社会学の基礎理論①ー行為論と社会関係論 9 社会学の基礎理論②ー集団論と社会構造論 10 家族ーその基礎概念と歴史的位相 11 ジェンダー論の基礎と歴史的展開 12 少子高齢社会ーその要因と歴史的展開 13 労働世界の変容ー格差社会 14 エスニシティと民族問題ー難民・移民・外国人労働者問題 15 期末理解度テスト 事前学習として該当回のプリントを読んでおくこと。事後学習として該当回のプリントを再読し、「学習ポイント」の問いに解答できるか確認すること。		
テキスト	毎回の授業で逐次、講義レジュメと学習ポイントの2種類のプリントを配布する。		
成績評価 の方法	レポートを実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○期末理解度テスト 40% ○期末に提出する自主研究レポート 30% ○授業への参加・取り組み・発表 30%		
備 考	参考図書『テキスト現代社会学[第4版]』松田健著ミネルヴァ書房 2022		

授業科目(履修区分)	化学 (教養科目・自然科目)	担当教員	笠嶋 義夫
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	身近なものについて、化学の見地から説明できるようになる。 さまざまなものや現象を、化学の見地から、自分の考えを述べることができるようになる。 農業にとって必要最低限の「化学」の知識を身に付け、説明ができ、簡単な計算ができるようになる。		
授業内容	1 ガイダンス 化学の基礎知識(元素記号、イオン、化合物名)。 [事前学習] 高校の教科書で、おもな元素記号とイオンを調べておくこと。 [事後学習] 講義で習った元素記号、イオン、化合物名を必ず覚えること。 2 イベルメクチンの開発とその利用 イベルメクチンとはどのような薬か、どのように開発されたかについて。 [事前学習] イベルメクチンという「薬」について調べておくこと。 [事後学習] イベルメクチンの作用の機構、人間にはなぜ副作用がほとんど起こらないかについて復習すること。 3 色 色の見え方、動物・植物と色の関係について。 [事前学習] 色の見え方について調べておくこと。 [事後学習] 色の見え方、動物の目のしくみ、植物の色の利用のしかたについて復習すること。 4 オゾンと紫外線との関係 オゾンとはどのようなものか、オゾン層と紫外線の関係について。 [事前学習] オゾン層と紫外線の関係について調べておくこと。 [事後学習] 紫外線が直接地球に降り注いだ時の植物や動物に与える影響について復習しておくこと。 5 二酸化炭素と地球温暖化 二酸化炭素と地球温暖化についてと二酸化炭素の農業への応用について。 [事前学習] 地球温暖化について調べておくこと。 [事後学習] 二酸化炭素とメタンが地球温暖化に与える影響について復習すること。 6 コメとでんぷん(1) アミロースとアミロペクチンの違い。 [事前学習] アミロースとアミロペクチンについて調べておくこと。 [事後学習] アミロースとアミロペクチンの違いをよく復習すること。 7 コメとでんぷん(2) お米とでんぷんのα化とβ化について。 [事前学習] でんぷんのα化について調べておくこと。 [事後学習] お米を炊いた時の、でんぷんのα化と、β化の違いについてよく		

	復習すること。 8 STS (花持ち剤) 花持ち剤の仕組みと、市場に与えた影響について。 [事前学習] 花きの花持ち剤とはどのようなものか調べておくこと。 [事後学習] STS が花を持たせる機構についてよく復習すること。 9 物質量の概念 物質量とは何か、化学の見地から考える。 [事前学習] 「物質量」とは何か調べておくこと。 [事後学習] 「物質量」の基礎的な計算をできるように復習しておくこと。 10 物質量について 物質量を使った計算ができるようにする。 [事前学習] 「物質量」の基礎的な計算をできるようにしておくこと。 [事後学習] 「物質量」と「原子量」「分子量」「式量」の関係について、計算できるようによく復習すること。 11 物質量と質量・分子数との関係 物質量と、物質の質量・分子数との関係がわかるようになる。 [事前学習] 「アボガドロ数」について調べておくこと。 [事後学習] 「物質量」と「原子数」「分子数」の関係について、計算できるようによく復習すること。 12 物質量と体積・質量・分子数との関係 物質量と、気体の体積、質量、分子数の関係がわかるようになる。 [事前学習] 「物質量」と「原子数」「分子数」「質量」の関係について、計算できるようにしておくこと [事後学習] 「物質量」と「原子数・分子数」「質量」「体積」の関係について、計算できるようによく復習すること。 13 化学反応式のたて方 化学反応式がたてられるようになる。 [事前学習] 高校の教科書で、化学反応式とはどのようなものか調べておくこと [事後学習] 化学反応式がたてられるように（特に係数）よく復習すること。 14 化学反応式と物質量 化学反応式と、物質量、質量、分子数、気体の体積の関係がわかるようになる。 [事前学習] 化学反応式がたてられるようにしておくこと。 [事後学習] 化学反応式を使った「物質量」と「原子数・分子数」「質量」「体積」の計算ができるようによく復習すること。 15 期末試験 期末試験を行う。 [事前学習] 項目 9～14 までをしっかりと勉強しておくこと。 [事後学習] 定期試験の問題で、できなかったところを、教科書を見ながら復習すること。
--	---

テキスト	「物質科学の基礎としての化学入門」(学術図書出版社/2013 年)
成績評価の方法	講義内レポート 6 回 (30%)、基礎化学小テスト数回 (20%)、 期末試験 (50%)
備 考	

授業科目 (履修区分)	生物学 (教養科目・自然科学)	担当教員	国武 陽子
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	生物学は生命に関する詳細な知識を学ぶことだけではなく、生命を理解することを通じてこの地球の仕組みを理解し、我々人間自身を理解することにつながる。本講義では、生命が何故現在みられるような形をもち、また行動をするのか、進化的な視点から理解を深める。本講義の教育目標は、動植物を扱う上での生物学の体系的な学びを基盤とし、生物と生物の生育環境との関りを意識できる、また、人間との関りなど広い視野で生物をとらえられるミクロとマクロの両方の視点をもてるようになることを教育の目標とする。		
授業内容	1 生命とは何か：生物と非生物の違い、生命現象を理解する意味 2 生命の起源と歴史：生命史、大進化 3 生命をかたちづくるもの：化学的構造と細胞の仕組み 4 生命とエネルギー：生命のエネルギー源とそのゆくえ 5 基礎遺伝①:遺伝子と遺伝、メンデル遺伝 6 基礎遺伝②:DNAとタンパク質 7 ダーウィンの進化論:進化と遺伝、自然選択と環境適応 8 生物と環境:資源と生物、生物と環境の相互作用 9 個体群生態学の基礎：保全の単位としての生物集団 10 動物行動学：個体レベルの動物の行動原理 11 様々な生態系① 森林生態系、草地生態系 12 様々な生態系② 都市生態系、田園生態系 13 生態系レベルの生物と環境の相互作用、物質循環 14 生物多様性とその保全：生物多様性の意味および社会的価値 15 評価試験（筆記試験）。		
教科書 参考書	なし（適宜、資料を配布） 講義内にて紹介		
成績評価 の方法	定期試験（70%）、レポート課題（30%）で判断		
備 考	出欠の取り扱いは千葉県立農業大学校の規定に準じる		

授業科目 (履修区分)	保健・体育実技 (教養科目)	担当教員	大塚 正美
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
教育目標	スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれる。本授業では、主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。		
授業内容	第1回 ガイダンス (科目の説明：体育とは) [事前学習] 保健・体育について科目特性を調べておくこと。 [事後学習] 保健・体育に関して理解を深めること。 第2回 講義：スポーツ指導と健康日本21について [事前学習] 体育とスポーツおよび健康について調べておくこと。 [事後学習] スポーツは体育の教材だと理解を深めること。 健康管理について理解を深めること。 第3回 講義：人体について [事前学習] 運動について調べておくこと。 [事後学習] 人体の特徴について理解を深めること。 第4回 講義：身体をつくる栄養 [事前学習] 食育について調べておくこと。 [事後学習] 運動と栄養の理解を深めること。 第5回 コーデネーショントレーニング [事前学習] 遊びと運動について調べておくこと。 [事後学習] 運動がもたらす健康について理解を深めること。 第6回 ソフトバレー (8分、5チーム) [事前学習] バレーボールについて調べておくこと。 [事後学習] ニュースポーツの理解を深めること。 第7回 レクバレー (8分、5チーム) [事前学習] バレーボールについて調べておくこと。 [事後学習] ニュースポーツについて理解を深めること。 第8回 レクバレー (8分、5チーム) [事前学習] バレーボールについて調べておくこと。 [事後学習] ニュースポーツの理解を深めること。 第9回 アルティメット(8分；5チーム) [事前学習] フライングディスクについて調べておくこと。 [事後学習] ルールの理解を深めること。 第10回 アルティメット(4vs4；5チーム) [事前学習] アルティメットについて調べておくこと。 [事後学習] ルールの理解を深めること。 第11回 卓球 (シングルス)		

	[事前学習] 卓球について調べておくこと。 [事後学習] ルールの理解を深めること。 第12回 卓球 (ダブルス) [事前学習] 卓球について調べておくこと。 [事後学習] ルールの理解を深めること。 第13回 卓球 (団体) [事前学習] 卓球について調べておくこと。 [事後学習] ルールの理解を深めること。 第14回 講義：煙草と飲酒について [事前学習] 煙草と飲酒について調べておくこと。 [事後学習] 身体への影響について理解を深めること。 第15回 前期試験
テキスト	適時資料の配付を行う。
成績評価の方法	講義と実技への取組みと各小テストによる総合判断とする。
備考	実技については、運動に適した服装であること。

授業科目(履修区分)	保健・体育実技 (教養科目)	担当教員	諏訪 聡
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 前期
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれる。スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。		
授業の到達目標	スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションを拡大する。		
授業の方法	主に球技などチームスポーツを実践する。		
授業内容	1 ガイダンス (体育とは)・健康の考え方・BMI 2 心肺蘇生法・応急手当 3 救急法、AED実技講習会 4 ソフトバレー (8分6チーム) 5 ソフトバレー (8分6チーム) 6 キックベースボール 7 キックベースボール 8 中間レポート 9 バトミントン 10 バトミントン 11 卓球 (シングルス) 12 卓球 (ダブルス) 13 卓球 (団体) 14 講義:煙草と飲酒 15 期末試験		
テキスト	適時資料の配付		
成績評価の方法	講義と実技への取組みと各小テストによる総合判断とする。		
備 考	実技については、運動に適した服装であること。		

授業科目 (履修区分)	基礎英語会話 (教養科目・外国語)	担当教員	安井 俊哉
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
学習目標	1 英会話を聞き取る力を養う 2 英会話の慣用表現を学習する 3 TOEIC Listening 力を向上させる 4 TOEIC Reading 力を向上させる		
授業内容	1回(1)英会話を聞き取る。 対話練習、慣用表現を学習(レストラン) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 2回(1)英会話を聞き取る。 対話練習、慣用表現を学習(レストラン) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 3回(1)英会話を聞き取る。 対話練習、慣用表現を学習(レストラン) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 4回(1)test (1)(TOEIC Listening、Reading 練習問題 (1～3回))から (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 5回(1)英会話を聞き取る。 対話練習、慣用表現を学習(買い物) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 6回(1)英会話を聞き取る。 対話練習、慣用表現を学習(買い物) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 7回(1)test (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 (4～6回)から (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 8回(1)英会話を聞き取る。 対話練習、慣用表現を学習(買い物) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 9回(1)英会話を聞き取る。 対話練習、慣用表現を学習(買い物) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 10回(1)test (3)TOEIC Listening、Reading 練習問題 (7～9回)から (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 11回(1)英会話を聞き取る。 対話練習、慣用表現を学習(おしゃれ) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 12回(1)英会話を聞き取る。		

	対話練習、慣用表現を学習(おしゃれ) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 1 3回(1)test (4)TOEIC Listening、Reading 練習問題 (10～12回)から (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 1 4回(1)英会話を聞き取る。 対話練習、慣用表現を学習(おしゃれ) (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 1 5回(1)映画鑑賞
教科書 参考書	世界一わかりやすいTOEIC L&R テスト総合模試1 [600点突破レベル]
成績評価 の方法	出席、授業内テスト、授業態度で総合的に判断
備考	

授業科目 (履修区分)	英語会話 (教養科目・外国語)	担当教員	石橋 喜代子
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時間数	30時間
教育目標	Text、Toeic (プリント) を使い、real life における speaking, writing, reading, listeing を学ぶ。 毎回成果を板書してもらい確認する。		
授業内容	1回 Greeting, Describe People, one's self Toeic Work 2回 Present one's self family identify jobs Toeic Work 3回 Talk about countries Toeic Work 4回 Compare jobs in different countries Toeic Work 5回 identify places in a Home Toeic Work 6回 Describe Houses Toeic Work 7回 前回までの復習、板書したものを note する。 次回、確認する。 (自主学習) 8回 Compare houses in the world Toeic Work 9回 ideas worth spreading Toeic Work 10回 CD Activities Toeic Work 11回 Identify personal possessions Toeic Work 12回 Identify personal possessions Toeic Work 13回 自主学習を含め復習 14回 Pre-test 15回 期末テスト		
テキスト	World English Third Edition Toeic プリント		
成績評価 の方法	授業の取り組み、出席状況、口頭実技、聞き取り実技、期末テスト 進捗状況を総合的に判断。		
備 考			

イ 専門教育科目
(ア) 共通必須科目

授業科目 (履修区分)	生物化学実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	中田 菜々子、清水 敏夫、 井上 雄樹、山下 雅大、 永山 春菜、高田 伯約、 田川 真子
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	農業生産を取り巻く環境の究明、植物の計測、生理生態を明らかにするために必要な基礎基本の実験操作を学習すると共に、専門専攻（卒業論文）に進むための基礎的な知識および研究手法の修得を目的とする。		
授業内容	1回 実験の心得、顕微鏡の使い方、器具の取り扱い 2回 中和滴定 3回 雑草の観察と分類Ⅰ 4回 昆虫の観察 5回 雑草の観察と分類Ⅱ 6回 土壌化学性の測定Ⅰ 7回 病害の防除と分類 8回 農薬安全使用研修、農薬散布・希釈方法Ⅰ 9回 花粉の発芽観察 10回 土壌養分及び施肥方法に関する栽培試験Ⅰ 11回 甲虫類及びチョウ類の標本作成 12回 根の染色 13回 葉の構造観察及び蒸散量の測定 14回 土壌養分及び施肥方法に関する栽培試験Ⅱ 15回 アザミウマの標本作成 16回 土壌化学性の測定Ⅱ 17回 培地作成とホルモン剤の調整 18回 農薬安全使用研修、農薬散布・希釈方法Ⅱ 19回 無菌播種の方法 20回 土壌診断処方箋の活用 21回 器官培養の手法 22回 土壌物理性の測定Ⅰ 23回 農薬安全使用研修、農薬散布・希釈方法Ⅲ 24回 土壌物理性の測定Ⅱ		

	25 回 成長点及び根源細胞の観察 26 回 有機質肥料の作成 27 回 DNA を増やしてみよう 28 回 土壌生物性の測定 29 回 センチュウの観察 30 回 期末試験
テキスト	プリントを配布する
成績評価の方法	各授業におけるレポート（50%）、授業での取組（40%）、期末試験（10%）
備 考	

授業科目 (履修区分)	農場実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	各専攻教室担当者
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 通年
単 位 数	8単位	時 間 数	240時間
教育目標	農学科1年を通じて、農業全般に関する基礎的な栽培・飼養技術や農業知識を体系的に習得する。また、後期では専攻教室に所属し、前期の実習内容の補習又は関連付けた専門的な技術習得、基礎的な経営管理能力を養成する。		
授業内容	<前期> - 農場実習について 実施方法や農場管理について学ぶ 卒論テーマの決め方 GAP、スマート農業の取組について - 基本的な作業方法について学ぶ。 ①農場、農機庫・環境美化庫・油庫の利用方法 ②トラクターの基本操作、⑨操作の修練 4台のトラクターを用い、ロータリー耕およびGPS直進アシスト機能を習得する。 ③トラクターのアタッチの着脱、燃料の入れ方、大型機械試乗 ④刈り払い機・バリカンの操作・燃料の入れ方、刈刃の交換・メンテナンス方法 ⑤農薬・肥料の計算・散布方法(背負動噴・散粒機・手散布等) 灌水方法(スプリンクラーや灌水チューブの設置方法、セルトレイや鉢の灌水方法) ⑥鍬の使い方、鎌の研ぎ方、農具や工具の名称、マルチの手張り ⑦管理機の基本操作 ⑧田植機の基本操作 - トウモロコシ栽培の実施 班ごとに播種から収穫まで一連の作業を行う。 11専攻を輪番に廻り、各部門における作物の種類、栽培・飼育のねらい、作業内容やスマート農業への取り組み、「GAP」に関する取組などを一通り体験し、農業の全般について理解する。 <後期> 将来の進路に合わせた専攻教室に所属し、その専攻教室ごとの教育目標、実習内容(実習方法)により、専門的な知識や技術を体系的に習得する。また農学科2年次の卒業論文に向けた準備期間として、個々に必要な技術や知識を習得するためのプロジェクト学習を実施する。 1 専攻教室の専門的な技術を体系的に習得する。 2 卒業論文に向けたプロジェクト学習を実施する。 3 実験系専攻は統一した品目により栽培体系を習得する(合同実習)		

	4 専攻教室での実践からスマート農業や農業生産工程管理を学ぶ。		
テキスト	必要に応じ印刷資料を配布		
成績評価の方法	作業への取組姿勢、技術の理解度で評価		
備 考	B 5 以上のノート、雨合羽を用意する。		
授業科目	農場実習（作物）	担当教員	藤井 雄樹、保坂 信久
教育目標	作物（水稻、普通畑作物）の基礎的な知識及び栽培方法を学習し、また卒業論文に向けた品目の専門知識や体系的な栽培技術を習得する。		
実習内容	（通期） ・ 水稻や普通畑作物（落花生、大豆、麦など）の専門知識を学び、栽培実習により体系的な技術を習得する。 （前期） ・ 水稻の田植え作業及び普通畑作物の播種・定植等の栽培管理作業を行い、その品目ごとの基本的な栽培技術を理解する。 （後期） ・ 卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・ 専攻教室で取り組むスマート農業や農業生産工程管理を理解する。		
授業科目	農場実習（施設野菜）	担当教員	中臺 敬子、小林 亮輔
教育目標	施設野菜の基礎的な知識及び栽培方法を学習し、また卒業論文に向けた品目の専門知識や体系的な栽培技術を習得する。		
実習内容	（後期） ・ 施設野菜（トマトなど）の専門知識を学び、栽培実習により体系的な技術を習得する。 ・ かん水、温度管理などハウス内環境管理の手法を習得する。 ・ 卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・ 専攻教室で取り組むスマート農業や農業生産工程管理を理解する。		
授業科目	農場実習（露地野菜）	担当教員	佐瀬 善浩、山下 雅大
教育目標	露地野菜における栽培及び経営管理に必要な基礎知識を学習するとともに、卒業論文作成に向けて対象品目の体系的な栽培方法を習得する。		
実習内容	・ 実習を通して露地野菜（果菜類、葉菜類、根菜類）の種類や品種、作型、食味について学び、卒業論文の対象品目を選定して計画を作成する。 ・ 露地野菜の栽培管理を学び、トラクターや管理機などの機械作業や病害虫防除を含む基本的な栽培技術を身につけて定着させる。 ・ 栽培計画の作成や学校直売等での農作物の販売により経営管理やマーケティング		

	ィングに関する知識を習得する。		
授業科目	農場実習（果樹園芸）	担当教員	吉田 明広、井上 雄樹
教育目標	果樹栽培における基本技術と知識を学習し、卒業論文作成のための対象品目の体系的な栽培方法を習得する。また、農業生産工程管理やスマート農業技術を通じて効率的な農業経営技術の習得を目指す。		
実習内容	(後期) ・ニホンナシを中心とした栽培技術、品質管理技術を学習する。また、卒業論文対象品目を選定し、管理計画及び栽培計画を作成する。 ・省力化やセンシング技術を用いたスマート農業の知識や技術を習得する。 ・手順書に基づいて作業を運用し、効率的な経営技術を学ぶ。		
授業科目	農場実習（花き園芸）	担当教員	永山 春菜、田川 真子
教育目標	花き栽培における基幹作物の栽培をとおして、栽培管理の基礎、生理生態的特徴、温室などの施設管理の基本を学び、花き栽培の実践的能力を養う。また、MPS の理念やスマート農業技術を習得する。		
実習内容	(後期) ・千葉県で生産されている主要な花きについて、基本的な栽培技術・品質保持技術を習得する。また、卒業論文の実施計画を作成する。 ・花きの効率的な出荷調整作業・装飾技術を習得し、収益性の高い花き経営について学ぶ。 ・花きにおける MPS・スマート農業の基本知識を習得する。		
授業科目	農場実習（畜産）	担当教員	伊藤 香葉、本多 正隆
教育目標	家畜飼養管理の基礎的な知識と技術を習得する。また、スマート畜産機器や農場 HACCP に関する知識を学び、効率的な経営技術や衛生管理技術の習得を目指す。		
実習内容	(後期) ・飼料給与、除糞、堆肥生産等の作業を通じて家畜、家禽の飼養管理技術を学ぶ。また、スマート畜産機器や農場 HACCP に関する知識を習得する。 ・自給飼料作物の栽培・調整技術を学ぶ。 ・体重測定、行動調査、卵質検査等を通じて卒業論文に向けた試験設計や調査項目を学び、実施計画を作成する。		
授業科目	農場実習（情報経営）	担当教員	菅澤 太地
教育目標	農業経営において必要な基礎的な知識を習得する。また、自ら考えて栽培計画を立て、実施、評価、反省まで行うことで、卒業論文の実施に向けた課題解決の考え方を醸成する。		
実習内容	(後期) ・前期農場実習で身につけた知識や技術を生かして作物の播種から収穫までの一連の作業を実践する。 ・農業経営の状況を把握するための手法について理解を深める。		

	・農産物の流通、生産におけるマーケティングの必要性について学ぶ。 ・農業経営に必要な情報の集め方について学ぶ。 ・主要品目の栽培技術および経営収支を理解する。		
授業科目	農場実習（生物工学）	担当教員	中田 菜々子
教育目標	作物の栽培や生物工学に関する基礎知識を学ぶとともに、卒業論文作成に向けて必要な生物工学的手法を習得する。		
実習内容	・前期農場実習で身につけた知識や技術を生かして作物の播種から収穫までの一連の作業を実践する。 ・農業で活用される生物工学の基礎知識を学び、培地の設計および作製、無菌操作、培養等の生物工学的手法を習得する。 ・卒業論文に向けて既報の探索や予備試験、計画作成等を行う。		
授業科目	農場実習（食品加工）	担当教員	宮城 美紀子
教育目標	農産物に新しい付加価値をつけ、農業所得の向上に向ける6次産業化を学ぶ。そのため、圃場で栽培した農産物を教材として、その加工特性、加工貯蔵技術を理解する。		
実習内容	・前期農場実習で身につけた知識や技術を生かして作物の播種から収穫までの一連の作業を実践する。 ・食品加工圃場を通じて農業の実態について学び、基本的な野菜栽培技術を習得する。 ・食品加工技術の向上、農産加工原料の特性と加工方法を学び、卒業論文に向けた試験設計を行う。		
授業科目	農場実習（土壌肥料）	担当教員	高田 伯約
教育目標	農作物の栽培における効果的な土壌管理等を学習し、また卒業論文に向けた品目の基礎知識や栽培技術を習得する。		
実習内容	（後期） ・前期農場実習で身につけた知識や技術を生かして作物の播種から収穫までの一連の作業を実践する。 ・土壌管理（化学性、物理性、生物性）の専門知識を学び、栽培実習により基本的な栽培技術を習得する。 ・卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・専攻教室で取り組む環境に配慮した農業を理解する。		
授業科目	農場実習（病虫害）	担当教員	清水 敏夫
教育目標	基本的な栽培技術を習得し、病虫害及び天敵の発生生態の解明や総合的病虫害管理技術等を習得する。		
実習内容	（後期） ・前期農場実習で身につけた知識や技術を生かして作物の播種から収穫までの一連の作業を実践する。 ・総合的病虫害管理（IPM）技術とその実践方法を学ぶ。 ・ダイコンの栽培を通して、基礎的な栽培技術を習得する。		

	・病虫害発生メカニズムの理解や天敵の増殖技術等を習得する。 ・地域連携による商品開発の方法を学ぶ。 ・試験方法や調査方法を習得する。
--	--

授業科目 (履修区分)	国際農業実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	本多 正隆、保坂 信久、 永山 春菜、小林 亮輔
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 通年
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
教育目標	千葉県とは気候風土の異なる地域において、それぞれに発達した農業や理念について学ぶとともに、自然、歴史、文化、産業など幅広い視野を得て、異文化に対する理解力と海外に目を向けた幅広い考え方を身に付ける。また、グループ活動や交流などを通じ、コミュニケーション能力を高め、国際的な農業問題やグローバルな価値観を醸成する。		
授業内容	1 事前研修① (渡航先の概要・実習スケジュール・パスポートの取得について) 2 事前研修② (加入保険・予防接種の説明について) 3 事前研修③ (緊急時の連絡体制について、グループ行動行程について、 旅レジ登録について、手荷物・預け荷物について) 4 事前研修④ (入国審査について、実習スケジュール最終確認) 5 現地視察(農業視察) 6 研修報告発表		
テキスト	なし		
成績評価 の方法	実習態度(40%)・報告書(30%)及び発表(30%)で評価。 報告書の未提出は不可。		
備 考	視察先の資料やパンフレット等を参考図書とする。		

授業科目 (履修区分)	農業派遣実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	中田 菜々子、保坂 信久、 清水 敏夫、吉田 明広、 井上 雄樹、高田 伯約
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 通年
単 位 数	3単位	時 間 数	90時間
教育目標	千葉県内の先進農家等に派遣し、農業実習を通じて、実際の農業経営（農作業等）、農家生活を体験する。また、優れた農業者と交流することにより人間性・社会性を身に付ける。		
授業内容	1 大学校又は自家では体験できない農業技術、農家生活等を知る 2 先進農家の農業または農村生活に対する考え方、取り組み方を学ぶ 3 先進農家の経営、技術を見て、今後の大学校で学びたい事、学ぶべきことを見つける 4 農業及び農村生活の良さ、厳しさを体得する 5 農業社会の人脈を広げる		
テキスト	「農業派遣実習の手引き」等の指導資料 「農業派遣実習記録簿」		
成績評価 の方法	以下の項目の達成度から総合的に評価する 課題設定、定期報告書・農業派遣実習記録簿・レポートの提出、実習中の学習態度及び生活態度、農家及び農業事務所等の評価		
備 考			

授業科目 (履修区分)	キャリアサポート実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	井上 雄樹、高田 伯約、 中田 菜々子、山下 雅大、 田川 真子
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	農業法人や農業関連企業等への視察訪問や講演の受講により、農業及び関連産業に対する見識を高め、職業選択の一助とする。 また、社会人として必要な知識に向けた講義を行い、就農・就職に対する理解促進を図る。		
授業内容	1回 講義：就農・就職について、進路希望調査① 2回 講義：農業派遣実習ガイダンス①（希望調査） 3回 視察：農業法人 [Y' SAgrI 合同会社] 4回 視察：農業協同組合 [市原市農業協同組合(姉崎蔬菜組合)] 5回 視察：農業法人 [(株) 切替農園] 6回 視察：農業法人 [カズサの郷 愛彩畑] 7回 講義：農業派遣実習ガイダンス②（実習カード作成） 8回 視察：農業法人 [鈴木博志梨園] 9回 視察：農業法人 [農事組合法人新宿営農組合] 10回 講義：国際農業実習事前学習① 11回 視察：農業法人 [(株) M&B フローラ] 12回 視察：農業経営体 [若月牧場] 13回 講義：農業派遣実習ガイダンス③（農業派遣実習担当者会議） 14回 講義：国際農業実習事前学習②、講演「新規就農について」 15回 講義：ルーラル電子図書館説明会、講演「農業事務所について」 16回 講義：進路希望調査②、国際農業実習課題作成 17回 視察：農業関連企業 [(株) やます] 18回 視察：農業関連企業 [(株) ヴィルモランみかど] 19回 講義：国際農業実習事前学習③ 20回 視察：農業関連企業 [日本植物調節剤研究協会] 21回 視察：農業関連企業 [株式会社丸山製作所] 22回 視察：[平林物産 (株)] 23回 視察：[社会福祉法人土穂会ピア宮敷] 24回 講義：スーツ着こなしセミナー、労働法セミナー 25回 視察：[長生農業独立支援センター] 26回 視察：[長生農業独立支援センター] 27回 講義：国際農業実習事前学習④ 28回 講義：国際農業実習報告作成 29回 講義：進路希望調査③、国際農業実習報告会練習 30回 講義：国際農業実習報告会		
テキスト	視察・講演に係る資料やパンフレット等		
成績評価の方法	レポート (100%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	情報処理概論 I (専門科目・共通必修)	担当教員	澤田 博光
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	大学生生活および卒業後の社会人として必要となるコミュニケーション手段として、電子デバイス（パソコン、携帯、タブレットなど）で動作する基本的なアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）による情報処理について学習する。パソコンを使用して基本操作の学習と演習を行うことで、情報処理の基本的な知識を習得する。		
授業内容	1 ガイダンス（授業内容の説明、教員自己紹介） 2 ワードプロソフト（Word）の利用 … 文書の作成 3 " … 図や表の挿入・編集、文章の印刷 4 " … 表現力のアップ・レポートのレビュー 5 " … 便利な機能、練習問題 6 表計算ソフト（Excel）の利用 … データの入力、修正、保存 7 " … 表の作成・編集、グラフの作成・編集、印刷 8 " … データベース機能の活用、関数の活用、表示形式 9 " … ピボットテーブルの作成、マクロの作成、練習問題 10 プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の利用 … プレゼンテーション作成、オブジェクトの挿入・編集 11 " … 構成変更、スライド共通デザインの設定 12 " … プレゼンテーションの実行、特殊効果の設定 13 " … 発表者用ノートの作成、練習問題 14 情報処理の現状と課題 15 まとめ		
事前・事後学習	【事前学習】 ・授業前に授業内容に相当する教科書の内容を理解する。 【事後学習】 ・当日の授業内容を振り返る。 ・練習問題（演習）がある場合は期日までに提出する。 ・練習問題（演習）は、Google Classroom で提出する。		
教科書	情報リテラシー アプリ編 (Windows11・Office2021 対応) FOM出版 富士通ラーニングメディア		
成績評価の方法	出席点 (50%) + 期末試験 (50%) ※1：練習問題（演習）は、Word、Excel、PowerPoint に関する演習問題を提出する。 ※2：前期末に期末考査試験を実施する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	作物・園芸学概論 (専門科目・共通必修)	担当教員	山下 雅大
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	円滑に農場実習に参加できる最低限の基礎知識を、本講義により早期に習得する。 作物・園芸生産に関する基礎知識・基礎技術を身につけると共に作物栽培を取り巻く生理生態、環境について修得し、応用できる能力の基礎を学習する。 最新の農業技術であるスマート農業について、その内容・効果等の事例を用いて習熟させる。		
授業内容	1回 農業に関する単位・用語 2回 計算問題事例 3回 作物学・園芸学概論とは 4回 世界の食料事情、自給率 5回 作物の成長と体の仕組み 6回 作物の収量と栽培環境 7回 作物の品種・特性 8回 地域環境・土地利用 9回 園芸の歴史 原産地 10回 園芸作物の種類と分類 11回 園芸作物の生理・生態 12回 生育環境と栽培 13回 園芸作物の肥培管理 14回 農業生産の展望 15回 期末試験	農業に関する基礎知識 農業で必要となる単位、計算倍率百分率等 作物栽培の起源と文化及び役割 世界及び我が国の食料生産・消費 作物の生活史 収量、光合成、物質生産 原産地、品種とは、その特徴 作物の役割、生産と環境について 園芸生産の起源と歴史 自然分類と人為的分類 園芸作物の栄養器官・生殖器官の名と形態の多様性及び生理・生態 気象条件・土壌環境・立地条件 施肥、防除、収穫、品質保持 スマート農業の導入	
テキスト	必要に応じて資料を配布		
成績評価の方法	筆記試験の成績（60%）、小テスト（25%）、出席状況及び授業態度（15%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	植物防疫概論 (専門科目・共通必修)	担当教員	光畑 雅宏
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	作物保護の概要について知り、その内容を理解する。植物防疫行政および農薬行政について知り、その働きを理解するとともに、関係法令の概略を学ぶ。農薬に関する一般知識を身につけ、農薬のリスク評価と安全性や農薬の安全・適正使用について理解を深める。最後に農薬の施用技術について学ぶ。		
授業内容	1 作物保護と農薬 2 植物防疫行政①農業と植物防疫、組織体制、病虫害発生予察事業 3 植物防疫行政②防除事業、農林水産航空事業、植物検疫 4 農薬行政①農薬の歴史、農薬行政の概況 5 農薬行政②農薬の登録 6 関係法令解説 7 農薬の一般知識①農薬の名称、農薬の分類 8 農薬の一般知識②物理化学的性状、作用機構（殺虫剤） 9 農薬の一般知識③作用機構（殺菌剤） 10 農薬の一般知識④作用機構（除草剤、植物成長調整剤） 11 農薬の一般知識⑤農薬の開発、農薬の生産と流通 12 農薬のリスク評価と安全性 13 農薬の安全・適正使用 14 施用技術 15 筆記試験		
テキスト	「農薬概説 2025」（日本植物防疫協会）		
成績評価 の方法	授業への出席と筆記試験により評価する		
備 考			

授業科目 (履修区分)	土壌肥料概論 (専門科目・共通必修)	担当教員	高田 伯約
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	土壌の成り立ちと諸特性、植物の栄養素としての肥料特性と施肥効果、作物の生産性向上に係る土壌管理の基礎知識を習得することを目的とする。		
授業内容	1回 土壌肥料概論の学習について 土壌の分類Ⅰ（世界の土壌）、土と土壌、土壌の生成 2回 土壌の分類Ⅱ（日本の土壌） 3回 土壌の分類Ⅲ（千葉の土壌） 小テスト 4回 土壌の特性Ⅰ（物理性） 5回 土壌の特性Ⅱ（化学性） 6回 土壌の特性Ⅲ（生物性） 小テスト 7回 植物の必須元素と栄養特性Ⅰ（多量要素等） 8回 植物の必須元素と栄養特性Ⅱ（微量要素等） 9回 施肥の原理と肥料の種類・特性 小テスト 10回 土壌診断、施肥量の計算方法 11回 有機物と土づくり、土壌改良資材 12回 環境にやさしい施肥技術、施肥方法 小テスト 13回 作物別の土壌の特性 14回 期末試験 15回 学習のまとめ		
テキスト	「土と施肥の新知識」（渡辺和彦ほか 全国肥料商連合会）		
成績評価の方法	小テスト（4回）・期末試験（1回）を実施する。 評価配分は以下のとおりとする。 期末試験（40%）、小テスト（40%）、授業の取組態度（20%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	畜産学概論 (専門科目・共通必修)	担当教員	前之園 孝光
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	畜産学の基礎と概要について学習し、各家畜の特徴と飼育の基本技術、生産コストを学習する。また、人間と畜産物・家畜との関わりについても理解を深め、学生生活や社会生活を豊かにする。		
授業内容	1回 第1章：人間と食生活、畜産物、家畜の役割（1～20頁） 2回 第1章：肉、牛乳、卵の栄養と世界の食料事情（21～52頁） 3回 第2章：牛の特徴と品種、乳牛の繁殖、一生（53～63頁） 4回 第2章：肉牛の一生、飼養技術、繁殖技術（53～63頁） 5回 第2章：豚の育種、繁殖、飼養技術（64～68頁） 6回 第2章：鶏の育種、繁殖、飼養技術（69～75頁） 7回 第2章：家畜の飼料、家畜の糞尿利用（76～81頁） 8回 第2章：家畜の病気と獣医師の役割（82～90頁） 9回 第3章：日本の畜産の特徴（91～112頁） 10回 第3章：酪農、肉牛生産コストと経営（91～112頁） 11回 第3章：養豚、養鶏生産コストと経営（91～112頁） 12回 第4章：畜産物の流通と消費動向（113～146頁） 13回 第5章：世界の畜産と国際貿易（147～164頁） 14回 第6章：6次産業化、畜産経営と情報利用（164～186頁） 15回 第6章：家畜の福祉と耕畜連携、期末試験（164～186頁） 【事前学習】テキスト「図解 知識ゼロからの畜産入門」の各単元に 関係する頁を読み必要な事柄を調べ、ノートに記載する。 【事後学習】授業中に作成したノートとテキスト、配布プリントを 復習し必要に応じてノートを修正し完成する。		
テキスト	「図解 知識ゼロからの畜産入門」 （田島淳史監修 一般社団法人 家の光協会） 必要に応じ、スライド、動画を活用。適宜、プリントを配布。		
成績評価 の方法	授業中の態度と取り組み（15%）、ノートの提出とその評価（10%） 各単元テストとレポート（50%）、筆記試験（25%）。 以上の配分で評価する。 日常の学習に重点をおいた評価を行う。		
備 考	本学図書館所蔵書籍を紹介し、その有効利用を図る。		

授業科目 (履修区分)	農業経営・経済学概論 (専門科目・共通必修)	担当教員	菅澤 太地
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業経営学・経済学概論は、グローバル化する社会の中で、農業経営と農業経済の基本概念と基礎理論を理解するとともに、農業経営者として必要な知識と考え方を習得する。		
授業内容	1回 農業経営・経済とは 人間学と経営学 2回 経営資源の活用と経営目標 3回 世界から見た日本農業の現状 【小テスト】 4回 意思決定、経営環境マネジメント (SWOT 分析演習) 5回 農産物の流通について 6回 資金、資材、労働力の調達 【小テスト】 7回 農業所得の考え方 8回 農業所得の考え方と農家所得、成長戦略 【小テスト】 9回 経営戦略の策定 (損益分岐点、線形計画法など) 10回 経営の多角化、集落営農などの組織化 様々な農業経営体 11回 収益と税務関係 【小テスト】 12回 農業法人 (会社法人と農事組合法人) 13回 複式簿記の基礎知識 【小テスト】 14回 独立就農と経営者意識 15回 【期末試験】		
テキスト	毎回、資料を配布する。		
成績評価 の方法	小テストを含む筆記試験 (70%)、出席状況・授業態度 (30%) で評価する。		
備 考	農業経営者として基本的なマインドや事例を紹介しながら授業を行う。		

授業科目 (履修区分)	農業会計論 (専門科目・共通必修)	担当教員	井上 敬裕
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	複式簿記の基礎を理解する 農業経営と会計制度の関係性を理解する 農業簿記検定3級に合格する		
授業内容	1 簿記とは 2 農業簿記の特徴 3 簿記一巡の手続き 4 勘定科目 5 収益・費用の記帳方法1 6 収益・費用の記帳方法2 7 流動資産および流動負債など1 8 流動資産および流動負債など2 9 流動資産および流動負債など2 10 固定資産 11 中間試験 12 決算書の作成 13 決算書の作成 14 決算書の作成 15 期末試験		
テキスト	農業簿記検定教科書3級第2版(大原出版/2022年) 農業簿記検定問題集3級第2版(大原出版/2021年) 著書名(出版社名/出版年度)		
成績評価 の方法	中間試験・期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○中間試験:25% ○期末試験:25% ○授業への参加・取り組み・発表:50%		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業生産工程管理論 (専門科目・共通必須)	担当教員	田上 隆多 田上 隆一 白川 洋輔
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30 時間
教育目標	GAP（適正農業実践）を基礎から学び、農業生産における食品安全、環境保全、労働安全、人権・福祉、経営管理の視点を統合的に理解することを目的とする。講義と演習を通じて、生産工程における課題の把握、評価及び改善の基礎力を養う。		
授業内容	1 ガイドンス及びGAPの基本概念の理解 2 GAPの意義、持続可能性、農業政策、認証・保証制度、産地としての取組み 3 GAPマネジメントの構造と農場管理の基本的な考え方 4 GAP各論Ⅰ（労務管理、労働安全、施設・資材管理） 5 GAP各論Ⅱ（土壌管理、養分管理、病虫害管理、農薬取扱い、水管理） 6 GAP各論Ⅲ（食品安全、衛生管理、販売管理及び畜産分野の要点） 7 写真及び事例を用いたリスク発見演習 8 自習：農業生産工程管理論と他科目との関わりの整理 9 中間テスト及び前半内容の解説 10 農場・関連施設の現場見学 11 現場見学の振り返りと気づきの整理 12 リスク評価の基本とリスク評価演習 13 ビデオを用いた模擬農場評価演習 14 聞き取りの技法を踏まえた農場聞き取り演習		
教科書 参考書	「日本 GAP 規範 第2版」 監修：一般社団法人日本生産者 GAP 協会／編集：株式会社AGIC／2021年9月15日 第2版1刷発行 適宜、資料を配布する。		
成績評価 の方法	平常点（授業への参加状況、演習及び発表への取組み状況）、課題（自習課題、演習課題）、中間テスト、期末レポートにより総合的に評価する。評価配分は以下の通りとする。		

	○平常点 20% ○課題 20% ○中間テスト 25% ○期末レポート 35%
備 考	

授業科目 (履修区分)	農業機械実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	内山 和也、大内 昭彦、 林 貴雄、中島 勇貴
対象年次	農学科1年	期 別	令和8年度 通期
単 位 数	3単位	時 間 数	90時間
教育目標	農業機械実習は、農業機械の安全な操作方法と効率的に利用するための知識と技術を学ぶ。農業機械実習では、1 農業機械士養成研修か、2 農業機械基本研修を選択する。		
授業内容	1 農業機械士養成研修 (1) 農業機械に関する基礎知識 ・スマート農業対応の最新農業機械情報 ・農作業安全、農業機械の基礎 ・各種作業機の構造と作業方法、農業機械の効率利用 (2) 農業機械の運転操作 ・トラクターの公道走行における運転操作 (3) トラクターへの作業機(プラウ)の装着 (4) 耕耘整地作業機械(ロータリ耕)の取扱い (5) 農業機械の整備点検 (6) 大型特殊免許(農耕車限定)試験 (7) 農業機械士検定試験 2 農業機械基本研修 (1) 農業機械に関する基礎知識 (1の(1)と同じ) (2) 農業機械の運転操作 ・トラクター、管理機、草刈機械など (3) 耕耘整地作業機械の取扱い (4) 農業機械の整備点検 (5) 農業機械の学科及び実技試験		
テキスト	農業機械士技能検定試験テキスト《第5版》 農業機械士技能検定試験問題例題集 (一般社団法人日本農業機械化協会編)		
成績評価の方法	成績評価は、農業機械士技能検定試験の成績やこれに準ずる農業機械や学科及び実習の試験成績 70%、農業機械実習への取組み姿勢 30%の合計点で評価する。		
備 考	農業機械士養成研修は、大型特殊免許の受験時に普通自動車又は中型自動車二輪等免許取得済が条件となる。		

授業科目 (履修区分)	食品学 (専門科目・共通必修)	担当教員	柴野 幸雄
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単位数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	食品中の個々の成分の性質や機能を理解するとともに、食品を製造するための基礎的な知識、技術を学習することにより、品質と生産性の向上を図る能力と態度を養う。		
授業内容	1 食品製造の意義 食品産業の現状と動向 2 食品の分類・分類法 3 日本食品標準成分表とエネルギー計算 4 植物性食品・動物性食品 5 加工食品（油脂類 調味料・香辛料類） 6 その他の加工食品（組み立て食品 保健機能食品） 7 自主学習（課題学習） 8 栄養素の種類と働き 炭水化物・脂質・タンパク質 9 栄養素の種類と働き 無機質・ビタミン 10 微生物の生育と加工食品 11 デンプンの構造とその変化 油脂の性質と脂肪酸 12 酵素とその作用 食品中の主な色素とその性質 13 食品加工における加熱殺菌 加熱食品における表示義務 14 食品と食品衛生 食中毒 15 期末試験		
教科書	「食品製造」 （実教出版） 「新食品成分表」（東京法令出版）		
成績評価の方法	レポート（課題）・期末試験を実施する。 期末試験（70%） 授業への取り組み・レポート（30%）により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	食品加工実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	宮城 美紀子・山下 富士子 柴野 幸雄・今井 由紀子
対象年次	農学科 1年 農学科 2年	期 別	令和7年度 後期 令和8年度 前期
単 位 数	3単位	時 間 数	※90時間
教育目標	農産物の経済性、保存性を高めるために、必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付ける。 また、6次産業化の意義や事例等を理解し、販売の基本的知識を得る。		
授業内容	<u>農学科2年（前期）</u>・・・※令和8年度12回実施【 】内は講義内容 12回 小麦粉の加工（メロンパン） 13回 膨らむ原理 膨張剤①（重曹の性質を利用した技術） 【販売するときの表示】 14回 米の加工（おこわ）、乳の加工（アイスクリーム・ヨーグルト） 【食品営業にかかわる営業許可】 15回 膨らむ原理②（ベーキングパウダーを利用した技術） 【販売する時のパッケージ】 16回 長く保存する原理（果実の加工）（ブルーベリージャム） 【ジャムのゼリー化3要素・瓶詰め殺菌】 17回 膨らむ原理 卵白の起泡性（米粉シフォンケーキ） 【製造原価計算】 18回 長く保存する原理（野菜の加工） 玉ねぎのたれ 【食中毒の予防】 19回 麺の製造 【原料によるめんの分類と特徴、手打ちそばの製造法】 20回 乳の加工（アイスクリーム） 【加工室の5SとHACCP】 21回 イモ類の加工 【課題制作について】 22回 課題制作（6次産業化に向けての取り組み） 23回 課題発表会、大掃除		

	<u>農学科1年（後期）・・・※令和7年度11回実施済</u> 1回 ガイダンス（実習内容及び加工室の利用方法、衛生管理） 2回 果実の加工 3回 小豆の加工 4回 小麦粉の加工 5回 米粉の加工 6回 小麦粉の加工 7回 卵の加工 8回 野菜の加工 9回 豆類の加工（豆腐の製造技術） 10回 イモ類の加工 11回 大掃除
テキスト	適時プリントを配布する 「食品製造」（実教出版）「新食品成分表」（東京法令出版）
成績評価の方法	実習態度及び出席状況（30%）、レポートの提出・内容（20%） 課題発表会（50%）

授業科目 (履修区分)	キャリア基礎講座 (専門科目・共通必修)	担当教員	大島 啓孝、佐藤 真理子、 土屋 浩之、中村 恭子
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	就職・就農を含め「卒業する自分」をイメージして、早くから進路を考え、将来の目標へ向け、今できることに自立的に取り組む姿勢を育む。 社会で求められるコミュニケーション能力、チームワーク能力を理解し身に付ける。 就職・就農に関する知識・情報を活用し、考え行動する選択肢を増やし、自立的に積極的に行動することができることを目指す。		
授業内容	1回 オリエンテーション 2回 自己分析Ⅰ 自分の強みを知る 3回 自己分析Ⅱ 強みから自己PRをつくる 4回 自己分析Ⅲ 会社に応じた自己PRを考える 5回 就職活動 求められる人材を考える 6回 採用試験 採用試験の多様性と目的を知る 7回 ビジネスマナー 会社訪問に必要なビジネスマナーを知る 8回 企業へのアプローチ 求人情報の見つけ方 9回 自己分析Ⅳ 自己PRとエピソードを考える 10回 履歴書Ⅰ 履歴書の基礎理解 11回 履歴書Ⅱ 履歴書と自己PR 12回 履歴書Ⅲ 履歴書を完成させる 13回 面接対策Ⅰ 採用試験と面接の関連性を知る 14回 面接対策Ⅱ 面接対策と自己PR 15回 面接対策Ⅲ、まとめ 模擬面接練習		
テキスト	授業の都度配布する		
成績評価の方法	「社会人基礎力」の取得状況とワークショップによるチームワークの視点での評価を取り入れ、授業態度・姿勢、授業中に発揮できたこと、授業での提出物（履歴書他）の完成度について評価する。		
備 考			

(イ) 共通選択科目

授業科目 (履修区分)	農業環境概論 (専門科目・共通選択)	担当教員	多田 充
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業は植物や動物などの生物を対象とし、それを取り巻く自然環境や社会環境との相互作用の基で成り立っている産業である。本講義では農業が持続的に発展するためには周辺環境との調和が必要であることを理解し、その調和を維持するために必要な、環境配慮の基礎的能力を養う。		
授業内容	1回 オリエンテーション 授業の概要、予復習等の準備について説明する。 【事前学習】身の回りの農地をよく観察し、農業と環境の関わりにどのようなものがあるか考える。 【事後学習】指示に従って、授業準備を行う。 2回 農業と自然環境（1）：グループワーク「食べ物のネットワーク図づくり」 ワークショップを通じて農業が周囲の自然環境とどのように連携しているかを理解する。 【事前学習】毎日の食事がどのような材料から構成されているか調べておく。 【事後学習】毎日の食事と自然環境の繋がりについて意識する。 3回 農業と自然環境（2）：農業に影響を与える自然環境 農業生産に必要な環境要因について整理・解説する。 【事前学習】ワークで抽出された自然環境の要因を整理する。 【事後学習】農業に影響を与えている自然環境、社会環境の具体例を調べる。 4回 農業と自然環境（3）：自然環境に影響を与える農業 農業生産が周囲の環境に与える影響を整理・解説する。 【事前学習】農業が周辺の環境に与える良い影響・悪い影響を予想する。 【事後学習】農業生産が周囲の環境に影響を与えている具体的な事例を調べる。 5回 事例紹介・農業と水環境（1）：バーチャルウォーター 農業と環境の相互作用を、水環境をとりあげて解説する。農業生産に必要な水、バーチャルウォーター（仮想水）の特徴を説明し、見えにくい環境要素の重要性、地球環境全体との関係性を理解する。 【事前学習】バーチャルウォーターについて調べる。 【事後学習】農業における水危機の事例を調べる。 6回 事例紹介・農業と水環境（2）：水循環 地球における水循環を体験し、再生可能な資源の適切な利用について理解する。		

	【事前学習】地球における水の起源、循環について調べる。 【事後学習】農業における節水事例を調べる。
7回	事例紹介・農業と水環境（3）：水危機とその対策 世界における水危機の事例を紹介し、その危険性と対応策を分析する。 【事前学習】アメリカの農業と地下水（オガララ帯水層）の関係について調べる。 【事後学習】灌漑のメリットと注意点を整理する。
8回	農業と自然環境（4）：まとめ 農業と自然の相互関係性を整理し、問題を引き起こす根源的な理由について考察する。 【事前学習】水問題の他に農業に影響を与えている環境問題を調べる。 【事後学習】農業が環境問題の影響を受けない、環境問題を引き起こさないためにはどのような方策が必要か考える。
9回	農業と社会環境（1）：農業へのニーズ分析 KJ法を利用して、農業に対してどのような社会的ニーズがあるかをグループで討議、発表する。 【事前学習】社会が農業に対して何を求めているのか、農業が社会で果たしている役割を調べる。 【事後学習】グループ討議の結果を自分なりに図化する。
10回	農業と社会環境（2）：農業に影響を与える社会環境 農業に影響を与える社会環境の例として、農作物の機能性、生産技術、エシカル消費を紹介する。 【事前学習】スーパーフードとスマート農業、ビーガンについて調べる。 【事後学習】社会の変化に伴って今後どのように農業が変化するのか予想する。
11回	農業と社会環境（3）：社会環境に影響を与える農業 農業が社会環境に与える影響の例として、人口増加、余剰生産物と社会構造、ライフスタイルを紹介する。 【事前学習】若い都市出身者が農村部に移住した場合に希望する理想的なライフスタイルを調べ、なぜそのような希望を持つのかを分析する。 【事後学習】社会における農業の良いイメージにはどのようなものがあるかまとめる。
12回	環境リスクマネジメント（1）：リスク管理の手法 環境に起因する損害や環境への影響を意識的にコントロールするためのリスクマネジメントの手法を学習する。 【事前学習】実習や日常生活を通じて事故になりかかってヒヤリとした経験を振りかえり、今後どのようにしたら事故が防げるかを分析する。 【事後学習】事前学習を行った事案を自分なりにリスク対策してみる。
13回	環境リスクマネジメント（2）：事例分析

	温暖化を例に影響評価を行い、リスクマネジメントの有用性を理解する。 【事前学習】温暖化によって農業にどのような影響が生じるか調べる。 【事後学習】リスクマネジメントによって温暖化のリスクがどのように調整されたか把握する。 14回 まとめ 授業を総括し、農業と環境の相互関係の視点から持続可能な農業のありかたについて考察する。 【事前学習】授業ノート、配布プリントを見返して内容を振り返る。 【事後学習】授業の要点をとりまとめる。 15回 期末試験 授業内容をふまえ、記述式の試験を実施する（持ち込み不可）。 【事前学習】ノート、配布プリントを見返して内容を振り返る。 【事後学習】自己採点をし、分からなかった点を再学習しておく。
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	課題（グループワーク等）、期末試験を実施する。評価配分は以下の通り。 期末試験（50%）、授業内における課題（30%）、授業への参加・取組状況(20%)
備考	

授業科目 (履修区分)	生物統計学 (専門科目・共通選択)	担当教員	溝田 俊之
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	データの整理・要約方法を身につけ、データの要約やグラフからデータの傾向について考察できるようになる。基礎的な推測統計学が理解できる。		
授業内容	1 統計学の概要と考え方 母集団と標本 2 情報の可視化 グラフの作り方 3 2変量の関係 相関係数 4 標本集団の特性の捉え方 代表値とばらつき 5 度数分布とヒストグラム 6 度数分布から確率分布へ 確率密度関数 7 正規分布の特徴 標準偏差と割合 8 区間推定 9 χ^2 (カイ自乗) 分布とF分布 10 仮説検定 母平均の検定 11 z検定とt検定 12 2群の平均の差の検定 13 分散分析 14 分散分析と多重比較 15 期末演習試験		
テキスト	栗原伸一著「入門 統計学(第2版)」、オーム社 参考図書：福井正康著「基礎からの統計学」, https://www.heisei-u.ac.jp/ba/fukui/text.html		
成績評価 の方法	期末演習試験を実施する。 評価配分は以下の通りとする。 期末演習試験 (40%)、演習への取り組み・発表 (40%)、平常点(20%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業工学 (専門科目・共通選択)	担当教員	池尻 勉
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業工学に関する、生産基盤（用水・排水、農地）、環境保全、農村社会の知識を修得し、地域農業および農村の維持発展について基礎能力を養う。		
授業内容	1 農業工学概説 農業と水・土（農地）・環境・農村との関りを概説 2 基礎知識Ⅰ 単位、力及び水に関する基礎知識 3 基礎知識Ⅱ 土壌・土質に関する基礎知識 4 水文学 水の循環、気象観測、降水、水の利用 5 農業水利学 農業水利施設、用水の利用 6 農業水利学 農業排水の目的、洪水・農地災害とその対策 7 ほ場整備 ほ場整備の目的と効用 8 ほ場整備 換地、農地の集団化 9 スマート農業 スマート農業に向けた農業基盤整備 10 環境保全 生態系の仕組み、農業の役割と関係性 11 農村社会 農村社会の特徴、土地改良区の役割 12 事例研究 両総用水を例に農業用水の概要を解説 13 事例研究 農業工学におけるトピック的な事例を紹介・解説 14 期末試験 15 総括		
テキスト	第1回講義時に配布予定、必要に応じ適宜配布		
成績評価 の方法	小テスト・レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。 期末試験:60%、授業中に実施する小テスト及びレポート:40%		
備 考	参考図書 「農業土木ハンドブック」（農業土木学会）		

授業科目 (履修区分)	農業法律学 (専門科目・共通選択)	担当教員	大島 大
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業（特に農地）に関する法律について、歴史的背景や政策などを踏まえて法制度の変遷および問題点を検討することによって、現在の農業の在り方についての理解を深める。		
授業内容	1回 ガイダンス・「農地」とは 農地の定義（農地法・不動産登記法）について。 2回 農地改革 地租改正から農地改革を経て農地法制定まで。 3回 農地法 1 農地法の目的やこれまでの農地法改正について。 4回 農地法 2 権利移動の制限（3条）。貸借の自由化など。 5回 農地法 3 転用の制限（4条）。農振法・都市計画法や生産緑地法。 6回 農地法 4 3条4条以外の内容。農業委員会について。 7回 農地の流動化 1 農業基本法から農用地利用増進法まで。 8回 農地の流動化 2 農業経営基盤強化促進法（基本方針・認定農業者等）。 9回 農地の流動化 3 農業経営基盤強化促進法による農地の権利移動。 10回 食の安全と流通 1 食品安全基本法、食品衛生法、JAS法など。 11回 食の安全と流通 2 農薬取締法、トレーサビリティ、PL法など。 12回 米政策 1 食糧法から旧食糧法、改正食糧法まで。 13回 米政策 2 直接支払制度について 14回 農家の税金 所得税、法人税、住民税、相続税など。 15回 期末試験		
テキスト	每授業時にレジュメを配布します。 必要のあるときに随時紹介します。		
成績評価 の方法	期末試験を実施する。評価配分は以下の通り。 試験(50%)、授業への参加・取組(50%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業協同組合論 (専門科目・共通選択)	担当教員	伊本 克宜
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時間数	30時間
教育目標	現代社会における協同組合の存在意義を理解し、協同組合セクターとして地域の「農業とくらし」を支える農業協同組合(JA)の役割を学ぶ。		
授業内容	1 はじめに 「農業協同組合論」の意義 2 協同組合の今日的意義 3 日本のJAの特徴 ①協同組合原則 ②JA綱領 4 JA事業① 5 JA事業② 6 JA全国大会の概要 7 自主学習 ※教科書2冊の感想をレポートにする 8 全農の役割① 9 全農の役割② 10 地域JA① 11 地域JA② 12 地域JA③ 13 JA事業と農政① 14 JA事業と農政② 15 農協論総まとめ・最終レポート提出		
教科書	教科書・「激変！農政のゆくえ」(伊本克宜、KKベストブックス刊) ・「私たちとJA(13訂版)」(JA全中編) 副教材 「千葉県農業・JAの現状」(JA千葉中央会)		
成績評価 の方法	最終講義レポート テーマ「2030年の私と食と農とJA」 授業資料・教科書2冊を引用しながら、今後の自分とJAの役割を考える		
備 考			

授業科目 (履修区分)	情報経営論 (専門科目・共通選択)	担当教員	溝田 俊之
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農家経済の仕組みを理解し、経営費と所得、生産費と利潤の関係を理解する。試算計画法と線形計画法の基礎を修得し、経営計画を作成することができるようになる。また同法を利用して経営分析を行う方法を修得する。		
授業内容	1 イン트로ダクション 2 農家経済の仕組みと経営分析 3 経営費と生産費の概念、差異の把握 4 経営費の把握と経営分析。税務申告と経営分析 5 生産費の計算と利益分析 6 生産費の計算と利益分析(2) 7 損益分岐点分析の理論と利用、試算計画法 8 中間レポート 9 数理計画法 線形計画の基礎 10 簡単な線形計画モデル 11 線形計画モデルの作成方法 12 線形計画の基本モデル (水稻、畑作、酪農) 13 線形計画の基本モデル (野菜、果樹) 14 線形計画の応用 (多段階線形計画法ほか) 15 期末演習試験		
テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配付する。		
成績評価 の方法	演習課題、レポート、期末試験を実施する。 評価配分は以下の通りとする。 期末演習試験 (40%)、演習、レポート (40%)、平常点(20%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業経営学 (専門科目・共通選択)	担当教員	井月 明
対象年次	農学科 2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	本講義の最上位目標は①社会でよりよく生き抜いていくための資質を身につけていただく②持続可能な社会の担い手になっていただくことです。通常、農業経営では、人、土地、資金などが経営資源と言われています。 社会環境が激変する中、実際社会において「農業経営者」として生き抜くためには幅広い「武器」(人事政策、営業活動、ブランディング、生成AIとの共存、ダイバーシティ、アート、税金・金、人生経営)などが必要ではないでしょうか！ このような武器を皆さんに哲学的に獲得していただき、農業経営者として生き抜いていただくことを本講義は目指します。		
授業内容	1回 記憶に残る農業経営学とは 2回 「大学」と「実社会」のミスマッチ 3回 真の農業経営者とは？！ 4回 農業経営者の人事政策(人材確保、後継者育成)とはⅠ 5回 農業経営者の人事政策(人材確保、後継者育成)とはⅡ 6回 農業の営業活動する世界にようこそ！！ 7回 ようこそ、農業ブランディングの世界へ 8回 戦争と食・農業 9回 生成AIと共存しなくてはいけない君たちへ 10回 レポート作成・提出 11回 皆さんが将来、働く場の存在意義とは何か？！ 12回 ダイバーシティ・ソーシャルと農業(外国人・障害者) 13回 経済成長の鈍化、経営はアートの世界へ！ 14回 学校では誰も教えてくれなかった「税金」や「金」の話 15回 農業経営とか人生経営とか？！		
テキスト	授業時に適宜、自作プリントを配布する		
成績評価 の方法	レポート(60%)、授業態度(40%)		
備 考	授業中はスマホ等の電源を切ること		

授 業 科 目 (履 修 区 分)	情報処理概論Ⅱ (専門科目・共通選択)	担当教員	野尻 八千代
対 象 年 次	農学科2年	期別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	時間数	30時間
教 育 目 標	農業経営，農業関連産業において必要とされる情報リテラシー（情報活用能力）を適切に活用するための技術習得を目指す。 情報処理技術検定3級合格レベルのスキルを目標とし，企業や社会が求める実践的なアプリケーションの操作方法を身につける		
授 業 内 容	Microsoft Office 2016 (Word, Excel, PowerPoint) の活用方法を実践に近い形で学習する。 1. Word：段落の概念（文字の配置・インデント） 2. Word：段落書式（行間・固定値・段落罫線） 3. Word：タブとリーダー（タブ設定・リーダー線） 4. Word：図表の配置（表の作成と編集・文字の折り返し） 5. Word：ページの管理（ヘッダー・フッター・改ページ） 6. Word：レポート作成（練習問題） 7. Excel：数式と計算（四則演算・セル参照・オートSUM） 8. Excel：表示形式と関数（表示形式・MIN・MAX） 9. Excel：セルの参照（相対参照・複合参照・絶対参照） 10. Excel：グラフ（作成と編集・データソース編集追加） 11. Excel：データベース機能（並べ替え・フィルタ・小計） 12. Excel：関数（ROUND・IF・COUNT・VLOOKUP） 13. PowerPoint：情報デザインから効果的なプレゼンを考える 14. PowerPoint：アニメーションを利用した情報表現 15. 期末試験		
テ キ ス ト	授業時にプリント資料を配布して，教材とする。		
成 績 評 価 の 方 法	評価配分は以下の通りとする。 ○期末試験:60% ○授業への参加・取り組み・発表:40%		
備 考	本館4Fパソコン室にて講義実施		

授業科目 (履修区分)	農業気象学 (専門科目・共通選択)	担当教員	宮田 明
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業と気象との関係を理解し、農業気象災害の防止や生産性の向上に役立てる。前半（基礎編）は気象が作物栽培や家畜飼養に及ぼす影響について、後半（応用編）は農業気象災害、環境調節、気候変動について学習する。 インターネットやテレビなどを通して得られる、天気予報や気象災害などの気象に関連する情報を正しく理解し、農業に活用するために必要な基礎的な知識を身に付ける。		
授業内容	1 農業と気象との関わり 2 日射と長波放射、地表面の熱収支 3 気温と湿度 4 降水と蒸発、風 5 作物の蒸散と光合成 6 畜産と気象 7 昆虫と気象、積算温度と発育予測 8 自主学習（レポート提出） 9 農業気象災害（1）温度に関連する災害 10 農業気象災害（2）降水、風に関連する災害 11 環境調節（1）作物栽培における環境調節 12 環境調節（2）畜産・貯蔵施設の環境調節 13 気候変動と農業 14 全体のまとめ 15 期末試験		
テキスト	教科書：なし。適宜、プリントを配付する。		
成績評価 の方法	授業への取り組み：20% 自主学習のレポート：30% 期末試験：50%（筆記試験。配布したプリントの持ち込み可）		
備 考	参考図書 第1回の授業で紹介する。		

授業科目 (履修区分)	新農業技術論 (専門科目・共通選択)	担当教員	藤井 雄樹
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	幅広い作目に関連するスマート農業を中心に、技術の概要や活用事例、導入効果等について解説を行う。また、外部講師による実際のスマート農業機器の紹介を行う。また、必要に応じて青果物の貯蔵と保蔵、環境保全型農業の2テーマについても概要を理解する(外部講師による機器・システム紹介が減った場合、2テーマが増加する予定)。		
授業内容	(1) スマート農業を情報の認知、判断、作業の実施に大別し、中小規模の農家でも利用可能な技術の理解を目指す。また、実際のスマート農業機器やシステムについても知見を深める。 (2) 農作物の品質保持に必要な技術、減肥料および減農薬栽培等の環境負荷が低い営農方法を理解する。 1回 本講義で学ぶ内容、スマート農業とは何か 2回 スマート農業1：情報の認知 3回 スマート農業2：情報の認知 4回 スマート農業3：情報の判断 5回 スマート農業4：作業の実施(1) 6回 スマート農業5：作業の実施(2) 7回 スマート農業6：外部講師による機器・システムの紹介(1) 8回 スマート農業7：外部講師による機器・システムの紹介(2) 9回 スマート農業8：外部講師による機器・システムの紹介(3) 10回 スマート農業9：外部講師による機器・システムの紹介(4) 11回 スマート農業10：スマート農業まとめ、小テスト 12回 青果物の保蔵・貯蔵：青果物の鮮度保持、国内外流通 13回 環境保全型農業：環境汚染と減肥料・減農薬栽培 14回 期末試験 15回 期末試験解説		
テキスト	資料を配布する。		
成績評価の方法	期末試験(70%)、授業への取組(30%)		
備 考	参考図書「図解よくわかる スマート農業」(日刊工業新聞社)		

授業科目 (履修区分)	国際食料農業事情論 (専門科目・共通選択)	担当教員	佐藤 博
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	国際食料農業事情に関し、第一に世界の人口増加と食料増産及び各国の農業生産の特徴と農産物貿易を知り、第二に日本農業と農産物貿易の推移及び千葉県農業の価格競争力を知る。それらによって世界の中での千葉県農業の立ち位置を知り、自らの農業経営の将来を展望できるような基礎的知識を養う。		
授業内容	1 世界の人口増加と負けてはいない食料増産 2 世界の農業生産技術の発展を主導する米国農業 3 大きく発展・変貌する米国農業の映像視聴 4 各国に共通する農産物価格の決まり方 5 どうして貿易をするとお互いの国が豊かになるのか 6 千葉県産農産物の輸入品に対する価格競争力 7 価格競争力を測る物差し、FOB と CIF 価格 8 中間レポート 9 激変した日本農業と農産物貿易の移り変わり 10 日本農業と各国農業との比較、負けてはいない生産額 11 期待される農産物輸出とアジア各国の経済成長 12 各国（オランダ、南米、中国他）の農業生産の特徴 13 トピックス・日本の米価決定の特徴他 14 世界の中での千葉県農業の立ち位置と今後の発展 15 【期末試験】		
テキスト	ー初回にプリントを配布する ー新版「農業がわかると、社会のしくみが見えてくる」 (生源寺眞一/家の光協会/2018年)		
成績評価 の方法	小テスト・期末試験を実施する。評価配分は次の通りとする。期末試験(35%)、小テスト・中間レポート(35%)、授業への参加・取り組み・発表(30%)		
備 考	参考図書：令和8年度版 食料・農業・農村白書（農水省）		

授業科目 (履修区分)	園芸療法論 (専門科目・共通選択)	担当教員	多田 充
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農園芸には作物等を生産するほかに、関わる人間に癒しを与える機能がある。この機能を病気の治療やリハビリテーションに活用するのが園芸療法であり、医療機関や福祉施設等において農業技術者が求められている。また、農業の担い手不足を、障害者を含む多様な人で補う農福連携という動きもみられるようになった。本講義では、これらの農業と福祉の関係について学び、これからの農業の多機能化について事例を交えて紹介する。		
授業内容	1 オリエンテーション：農の癒しを感じる 授業の概要について説明する。また、実際に屋外に出て農業環境に接したときの気分の変化について体感する。 2 農園芸の福祉的機能の活用方法 園芸福祉、園芸療法、農福連携の相違点を紹介する。 3 農福連携の事例①（福祉系） 小規模な障害者福祉施設における農園芸生産の事例を紹介する。障害者による農業生産の様子を学ぶ。 4 農福連携の事例②（福祉系） 別の小規模な障害者福祉施設における農園芸の事例を紹介する。障害者のための農業生産の様子を学ぶ。 5 農福連携の事例③（生産系） 生産を主体とする比較的規模の大きい農園（水耕栽培）における障害者の役割、生産体制を紹介する。 6 農福連携の事例④（生産系） 生産を主体とする比較的規模の大きい農園（ブドウ栽培、ワイン醸造）における障害者の役割、生産体制を紹介する。 7 障害者と就労支援制度 障害の定義、分類、障害者の就労をとりまく社会的制度などを説明する。 8 特例子会社における農園芸の取り組み 企業価値を高めるために障害者を雇用し、農園芸に取り組む特例子会社の事例を紹介する。 9 特例子会社・人材派遣会社における農園芸の取り組み 障害者や健常者を農園芸作業員として派遣する特例子会社・人材派遣会社とそのビジネスモデルを紹介する 10 園芸療法の事例紹介 福祉施設における高齢者や障害者を対象とした園芸療法の事例、治療のポイントを紹介する。 11 健康・リハビリテーション、園芸療法の定義と歴史 園芸療法を医療・福祉的側面から理解するために必要な用語、概念を説明する。また、園芸療法の歴史を紹介する。 12 園芸療法の効果		

	園芸療法の効果を身体的、精神的、社会的効果の3つの視点から紹介する。 13 子どもと園芸 花育や自然体験など、子どもと緑のふれあいプログラムの事例を紹介する。 14 体験活動と生きる力 子どもの体験活動がどのような効果をもたらすのか、「生きる力」をキーワードに解説する。 15 期末試験
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	期末試験を実施する。評価配分は以下の通り。 期末試験（80%）、授業への参加・取り組み（20%）
備 考	

授業科目(履修区分)	有害鳥獣対策講座 (専門科目・共通選択)	担当教員	浅田 正彦																																																
対象年次	農学科1年 農学科2年	期 別	令和8年度 後期																																																
単 位 数	1単位	時 間 数	24時間																																																
授業の目的 及び概要	有害鳥獣による農業被害、人身被害対策に関する知識を習得するとともに、自らが農村での農業生産などの生活を行う際の基礎的な対策技術を習得する。獣種毎の被害発生機序を理解し、獣害の少ない農村地域にするための素養を養う。																																																		
授業内容	<table><thead><tr><th></th><th>講義</th><th>実習</th></tr></thead><tbody><tr><td>1日目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>午前 獣害の実態と対策の基礎講義</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>アライグマ・ハクビシン対策講義</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>午後 小型獣捕獲実習</td><td></td><td>2</td></tr><tr><td>自動撮影カメラ調査実習</td><td></td><td>2</td></tr><tr><td>2日目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>午前 イノシシ対策講義</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>大型獣捕獲対策技術・ジビエ利用講義</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>午後 鳥害講義</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>大型捕獲実習</td><td></td><td>2</td></tr><tr><td>3日目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>午前 防護対策・環境整備対策講義</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>防護柵設置実習（小型ワナ・カメラ回収）</td><td></td><td>2</td></tr><tr><td>午後 集落ぐるみの対策講義</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>対策企画立案ワークショップ実習</td><td></td><td>2</td></tr></tbody></table>				講義	実習	1日目			午前 獣害の実態と対策の基礎講義	2		アライグマ・ハクビシン対策講義	2		午後 小型獣捕獲実習		2	自動撮影カメラ調査実習		2	2日目			午前 イノシシ対策講義	2		大型獣捕獲対策技術・ジビエ利用講義	2		午後 鳥害講義	2		大型捕獲実習		2	3日目			午前 防護対策・環境整備対策講義	2		防護柵設置実習（小型ワナ・カメラ回収）		2	午後 集落ぐるみの対策講義	2		対策企画立案ワークショップ実習		2
	講義	実習																																																	
1日目																																																			
午前 獣害の実態と対策の基礎講義	2																																																		
アライグマ・ハクビシン対策講義	2																																																		
午後 小型獣捕獲実習		2																																																	
自動撮影カメラ調査実習		2																																																	
2日目																																																			
午前 イノシシ対策講義	2																																																		
大型獣捕獲対策技術・ジビエ利用講義	2																																																		
午後 鳥害講義	2																																																		
大型捕獲実習		2																																																	
3日目																																																			
午前 防護対策・環境整備対策講義	2																																																		
防護柵設置実習（小型ワナ・カメラ回収）		2																																																	
午後 集落ぐるみの対策講義	2																																																		
対策企画立案ワークショップ実習		2																																																	
テキスト	事前に原稿提供																																																		
成績評価 の方法	班ごとに立案した対策企画のレポート評価																																																		
備 考																																																			

(ウ) 専門選択科目

a 植物系科目

授業科目 (履修区分)	植物生理学 (専門選択・植物系)	担当教員	永山 春菜
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	植物がどのように生き、成長し、環境に応答するかを学び、植物特有の生理現象の機能について理解する。また、その生理現象を活用した栽培技術について理解することを目標とする。		
授業内容	1回 構造と機能Ⅰ (細胞、葉) 2回 構造と機能Ⅱ (茎、根) 3回 種子と発芽 4回 花芽形成と開花 5回 受粉と結実 6回 繁殖と増殖 7回 中間レポート 8回 光合成Ⅰ (光合成速度) 9回 光合成Ⅱ (光呼吸) 10回 光環境と光合成産物 11回 植物ホルモンⅠ (オーキシン) 12回 植物ホルモンⅡ (ジベレリン) 13回 植物ホルモンⅢ (アブシシン酸、サイトカイニン、エチレン等) 14回 期末考査 15回 試験問題の解説		
テキスト	必要に応じて資料を配付		
成績評価 の方法	授業態度、中間レポート、期末考査		
備 考	参考図書 「絵とき 植物生理学入門」(オーム社) 「エッセンシャル植物生理学 農学系のための基礎」(講談社) 「植物の体の中では何が起きているのか」(ベレ出版)		

授業科目 (履修区分)	植物育種学 (専門選択・植物系)	担当教員	中田 菜々子
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農家は優れた品種を手に入れ、それを栽培して生産を上げる。この優れた品種を作出する方法を体系的に学び、農業における育種の意義を考える。さらに遺伝解析を活用した育種の実例等に触れ、これからの育種目標を考えていくための学習を行う。		
授業内容	講義形式で行うが、講義内容に関する設問に学生が回答する機会を設ける。 1回 品種と育種 2回 植物の生殖様式と雑種強勢 3回 ゲノムと倍数性 4回 量的形質と質的形質 5回 遺伝資源とゲノム情報 6回 交雑育種と種間交雑育種 7回 突然変異育種と遺伝子組換えによる育種 8回 中間レポート 9回 ゲノム編集技術による育種 10回 自殖性植物の育種法 11回 他殖性植物と栄養繁殖植物の育種法 12回 DNA マーカー選抜法と品種同定技術 13回 育種目標：多収性と早晚性、環境ストレス耐性、耐病性と耐虫性、食味および品質と成分 14回 種子法、種苗法について 15回 期末考査		
テキスト	「植物育種学(第5版)」(北柴大泰、西尾 剛著 文永堂出版)		
成績評価の方法	筆記試験・レポート (80%)、授業での態度・発言 (20%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	病理・昆虫学 (専門選択・植物系)	担当教員	清水 敏夫
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	本教科では、病気と害虫の発生、環境の影響、診断、防除法等について学ぶ。具体的な病害及び虫害の発生メカニズムについて理解を深め、これらに対する各種防除法についての知識を身に付ける。加えて、千葉県における病虫害研究の最新情勢についても学ぶ。		
授業内容	1回 植物病の現れ方、植物病に関連する人畜毒性のある生理活性物質 2回 植物病防除の目的、植物病の発見の歴史、学名について 3回 近年社会等に大きな影響を及ぼした病虫害の事例、診断の意義 4回 微生物病・病原体の概説、菌類1（原生動物界、クロミスタ界） 5回 菌類2（菌界） 6回 細菌、ウイルス・ウイロイド 7回 線虫害 8回 中間レポート 9回 昆虫の概説、形態1 10回 昆虫の形態2、分類1 11回 昆虫の分類2、ダニ目の概説、昆虫の生態1 12回 昆虫の生態2 13回 昆虫の生態3、病虫害の防除技術1 14回 病虫害の防除技術2 15回 期末試験		
テキスト	「植物医科学」（養賢堂）		
成績評価の方法	筆記試験（80%）、学習態度（20%）		
備 考	参考資料を提供して適時紹介する。		

授業科目 (履修区分)	土壌・肥科学 (専門選択・植物系)	担当教員	井上 雄樹
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	土壌及び肥料の特徴を学び、土壌保全と肥培管理及び環境保全との関わりを考えることを通して、農作物生産における土壌肥料管理技術の習得とその重要性を理解することを目的とする。		
授業内容	1回 土壌・肥科学の学習について (ガイダンス) 肥料の必要性について 2回 施肥量の決め方について 3回 肥料の種類と特徴 (1) 窒素質肥料 4回 肥料の種類と特徴 (2) リン酸質肥料とカリ質肥料 5回 肥料の種類と特徴 (3) 石灰質肥料と緩効性肥料 6回 化学肥料と有機質肥料について 7回 中間試験 8回 栽培環境と施肥の実際 (1) 水田土壌 (2) 露地土壌 (3) 施設土壌 (4) 樹園土壌 9回 土壌の化学性について 10回 土壌の物理性/生物性について 11回 土壌の生物性について (土壌消毒・堆肥) 12回 土壌の生物性について (緑肥) 土壌の肥沃化について (腐植) 13回 作物栽培における生育異常と欠乏症・過剰症について 14回 まとめ 15回 期末試験		
テキスト	「土と施肥の新知識」(渡辺和彦 ほか 全国肥料商連合会)		
成績評価 の方法	課題演習・中間試験・期末試験を実施する。 評価配分は以下のとおりとする。 筆記試験(60～50%)、課題演習(40～50%)		
備 考	参考資料を提供して適宜紹介する。 毎時間の施肥に関する演習を実施する。		

授業科目 (履修区分)	作物学 (専門選択・植物系)	担当教員	保坂 信久
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	食用作物の来歴や形態、特質、栽培方法や利用について学習する。イネを始めとしてムギ類、マメ類、イモ類等について作物学の基礎を学ぶとともに、これらの作物と生活との関わりについての理解を深める。		
授業内容	1回 イネの一生と栽培方法 2回 イネの育苗と移植、分けつの成長 3回 イネの根のはたらき 4回 イネの幼穂の発達と登熟に関する事 5回 イネの品種とその特性、病害虫に関する事 6回 稲作の現状と課題 7回 稲作用機械に関する事、米の試食 8回 ムギ類の特性と栽培方法 9回 ムギ類の現状と課題 10回 マメ類の特性と栽培方法（ダイズ） 11回 マメ類の特性と栽培方法（ラッカセイ、アズキ等） 12回 イモ類の特性と栽培方法（ジャガイモ、サツマイモ） 13回 トウモロコシの特性と栽培方法 14回 ソバの特性と栽培方法 15回 期末試験及び総括		
テキスト	「新版 作物栽培の基礎」（社団法人 農山漁村文化協会） 必要に応じて資料配布		
成績評価 の方法	学習態度（10%）、小テスト・レポート（40%）、 期末試験（中間試験等を含む）（50%）		
備 考	「作物学の基礎Ⅰ」（社団法人 農山漁村文化協会） 「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・ 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議） 「農作物病害虫雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産 部環境農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	野菜園芸学 (専門選択・植物系)	担当教員	江口 菜
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	野菜の生産状況や栽培における課題を理解する。野菜栽培に係わる共通管理方法や栽培管理技術について学習する。 主要な野菜の作型と品種、生理生態を学び、実践に向けた栽培知識・技術を習得する。		
授業内容	1回 野菜の生産と利用 暮らしの中の野菜 野菜の生産と消費の動向 2回 野菜の生育と品質 種子と発芽、根の発達と肥大 茎葉の生育と結球 3回 野菜の生育と品質 花芽分化・発達と果実の肥大 4回 野菜の生育と品質 休眠と休眠打破、野菜の品質とその管理 5回 野菜の栽培と環境管理 野菜の健全な生育と環境 6回 野菜の栽培と環境管理 土壌管理 7回 野菜の栽培と環境管理 施肥管理、小テスト 8回 野菜の栽培と環境管理 被覆栽培の利用 9回 野菜の栽培と環境管理 施設栽培と環境管理、養液栽培技術 (スマート農業を含む) 10回 野菜の栽培と環境管理 有害生物(病害虫、雑草)の管理 小テスト 11回 野菜の栽培と環境管理 果菜類の育苗、葉菜類の育苗 セル成型苗の育成 12回 野菜栽培の実際 ナス科野菜の栽培 13回 野菜栽培の実際 ウリ科野菜の栽培 14回 野菜栽培の実際 アブラナ科野菜の栽培 15回 期末試験		
テキスト	「農学基礎セミナー 新版 野菜栽培の基礎」 (社団法人 農山漁村文化協会)		
成績評価 の方法	小テスト、期末試験を実施する。 小テスト(20%)、期末試験(80%)		
備 考	参考書:「野菜ハンドブック」、「園芸作物標準出荷規格」、「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」		

授業科目 (履修区分)	果樹園芸学 (専門選択・植物系)	担当教員	吉田 明広
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	千葉県で栽培の多い梨を中心に、果樹の生理・生態と栽培技術の基本及び果樹の栽培状況などを理解する。また、各論において主要な果樹類の特徴について学ぶ。		
授業内容	1回 果樹生産と消費 2回 果樹の一生と1年 3回 果樹の適地 4回 生育課程と作業 5回 樹形と作業性 6回 増殖と定植 7回 施設栽培とスマート農業 8回 品質管理と販売 9回 中間テスト 10回 各論①ニホンナシ 11回 各論②ブドウ・カキ 12回 各論③ブルーベリー・ビワ・カンキツ類 13回 各論④核果類・キウイフルーツ・イチジク 14回 各論⑤熱帯果樹 15回 期末試験		
テキスト	【農学基礎セミナー】新版 果樹栽培の基礎 杉浦 明（農文協/2004年）		
成績評価 の方法	演習結果、中間レポート及び期末試験		
備 考	配布スライドなどをファイリングして管理すること		

授業科目 (履修区分)	花き園芸学 (専門選択・植物系)	担当教員	田川 真子
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	花き園芸の基礎的な内容を学習し、花き生産について理解を深め知識を習得する。		
授業内容	1回 草花園芸の特徴について 2回 草花生産と消費の動向について 3回 草花の多目的利用について 4回 園芸デザインについて 5回 草花の生育と環境① 6回 草花の生育と環境② 7回 中間試験 8回 品種改良と繁殖について 9回 栄養繁殖について 10回 草花の生育と栽培技術について 11回 切り花生産の特徴について 12回 鉢もの・花壇苗生産の特徴について 13回 草花経営の改善について 14回 期末試験 15回 試験問題の解説		
テキスト	「草花」(実教出版) 「持ち歩き!花の事典970種」(西東社)		
成績評価 の方法	試験およびレポートにより評価 中間・期末試験(70%)、授業への取り組み姿勢・発表(30%)		
備 考			

b 動物系科目

授業科目 (履修区分)	家畜育種学 (専門選択・動物系)	担当教員	瓦井 哲夫
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	時間数	30時間
教育目標	家畜育種学が人類の文明進展に果たしてきた役割等を十分理解させるとともに、家畜育種・改良の基礎である形質遺伝と能力検定による選抜を中心に学習することにより、畜産の生産現場において育種学がどのように関わっているかを理解させる。更に、家畜の生産能力を評価するための統計学（分散と標準偏差を主）の基礎を講義及び演習により体得する。		
授業内容	1回 家畜育種学の沿革1 家畜と文明の発展、野生動物の家畜化 2回 家畜育種学の沿革2 家畜の改良と歴史、わが国の畜産の展開と家畜改良 3回 家畜の種と品種 家畜の種と品種の分類、家畜の品種（牛・豚・鶏） 4回 家畜の形質の遺伝1 遺伝の仕組み（メンデルの法則とその発展） 5回 家畜の形質の遺伝2 家畜の性に関する遺伝、質的・量的形質の遺伝 6回 家畜の形質の遺伝3 量的変異の分析方法（平均・分散・標準偏差の基礎） 7回 家畜の形質の遺伝4 質的変異の分析方法（平均・分散・標準偏差の演習） 8回 予習（平均・分散・標準偏差の課題に対するレポート） 9回 家畜育種の方法1 育種目標（千葉県家畜改良増殖目標） 10回 家畜育種の方法2 選抜の方法（能力検定の実際：乳牛・豚） 11回 家畜育種の方法3 交配の方法（近交係数・血縁係数・近交退化・雑種強勢） 12回 家畜育種の方法4 遺伝子工学による育種（DNA操作等） 13回 各家畜の育種 1 乳牛・肉牛（牛群検定・産肉能力検定） 14回 各家畜の育種 2 豚・鶏（系統造成・組み合わせ検定） 15回 期末試験		

教科書 参考書	テキスト：講師作成、講義資料：各情報誌等
成績評価 方法	課題演習及び期末試験を実施する。評価配分は以下のとおりとする。 講義・演習への取り組み意欲、理解度 30%、期末試験成績 70%
備考	

授業科目 (履修区分)	家畜繁殖学 (専門選択・動物系)	担当教員	渡辺 一夫
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	家畜繁殖の基礎理論を理解し、具体的な繁殖管理の方法を習得する。		
授業内容	1回 家畜の繁殖：日本の畜産の形態と生産性及び家畜の繁殖性 2回 雌の生殖器：牛と豚の生殖器の特徴および機能 3回 雄の生殖器：牛と豚の生殖器の特徴および機能 4回 繁殖ホルモン：繁殖機能に係るホルモンの種類及び作用 5回 家畜の繁殖周期と性周期 性成熟および性周期に伴う生殖器の変化 6回 卵胞と黄体：雌の性周期と繁殖ホルモン動態 7回 精子の構造と運命：射精から受精能獲得まで 8回 排卵と受精 9回 発情および交配適期 10回 受精卵の発育、着床と胎盤形成 11回 妊娠・分娩：妊娠鑑定、胎児の発育および分娩 12回 牛の人工授精：凍結精液、人工授精手技および衛生管理 13回 豚の人工授精：人工授精手技、精液採取および精液調整法 14回 繁殖障害 15回 期末試験		
テキスト	「家畜人工授精講習会テキスト」（日本家畜人工授精師協会）		
成績評価 の方法	小テスト、レポート、期末考査を実施する。評価配分は以下の通りとする。 ◦期末考査 30% ◦授業中に実施する小テスト及びレポート 40% ◦授業への参加・取り組み・発表 30%		
備 考	参考図書 「家畜繁殖」（加藤征史郎 編著朝倉書店）		

授業科目 (履修区分)	家畜生理学 (専門選択・動物系)	担当教員	薫田 耕平
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	家畜生理学に関する家畜の細胞、組織、器官の生理機能とこれらの機能がどのような機序で発現するかを修得し、各機能の協調がいかにより生命維持や増殖等を担っているかを理解することにより、家畜の生産性向上のための飼養管理の基礎能力を養う。		
授業内容	1回 生体を構成する物質について [事前学習]テキスト7頁～11頁を読み、生体物質の特性について調べておくこと。 2回 細胞の構造と機能について [事前学習]テキスト13頁～23頁を読み、DNAの複製について調べておくこと。 3回 血液と血液循環について [事前学習]テキスト25頁～32頁を読み、血液の特性について調べておくこと。 4回 呼吸について [事前学習]テキスト33頁～39頁を読み、ガス交換について調べておくこと。 5回 消化と吸収について [事前学習]テキスト41頁～51頁を読み、消化器系の特性について調べておくこと。 6回 栄養と代謝について [事前学習]テキスト53頁～60頁を読み、栄養素の代謝について調べておくこと。 小テストを行い、1回～6回までの内容の学習習熟度を測る。 7回 排泄及び恒常性の維持について [事前学習]テキスト61頁～69頁を読み、肝・腎の特性について調べておくこと。 8回 内分泌系と機能について [事前学習]テキスト71頁～76頁を読み、内分泌系の特性について調べておくこと。 9回 ホルモンと作用について [事前学習]テキスト77頁～84頁を読み、ホルモンの特性について調べておくこと。 10回 生殖及び泌乳について [事前学習]テキスト85頁～98頁を読み、性周期とホルモンについて調べておくこと。 11回 神経系と情報伝達及び中枢神経と末梢神経系について [事前学習]テキスト99頁～112頁を読み、神経系による伝達について調べておくこと。 12回 感覚及び骨格と筋肉について [事前学習]テキスト113頁～135頁を読み、理解を深めておくこと。 13回 生体防御と免疫について [事前学習]テキスト137頁～146頁を読み、抗原抗体反応について調べておくこと。		

	小テストを行い、7回～13回までの内容の学習習熟度を測る。 14回 老化について [事前学習]テキスト147頁～153頁を読み、細胞の老化について調べておくこと。 15回 期末試験
テキスト	「図説 基礎動物生理学」 東条英昭、奈良岡準著(アドスリー)
成績評価の方法	小テスト・レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下のとおりとする。 ○期末試験：70% ○授業中に実施する小テスト及びレポート：10% ○授業への参加・取組・発表：20%
備考	参考図書「新編 家畜生理学」(加藤和雄著、養賢堂)

授業科目 (履修区分)	家畜環境保全学 (専門選択・動物系)	担当教員	岡田 望
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	環境に配慮した畜産を営むために、畜産環境に係る法規制を理解し、適切なふん尿処理と利用の基礎理論、実際の処理体系を習得する。		
授業内容	1 畜産の地域環境・地球環境への影響 2 畜産環境保全に係る法規制 3 家畜排せつ物法の概要 4 家畜ふん尿の基本と処理体系（小テスト） 5 堆肥化処理のメカニズム 6 堆肥化の設計計算 7 堆肥の生産と利用（小テスト） 8 家畜ふん尿の高度処理（メタン発酵処理等） 9 污水浄化処理の基本と処理体系 10 浄化処理メカニズム（活性汚泥法） 11 悪臭及び衛生害虫対策（小テスト） 12 自主学習（レポート） 13 { 現地視察研修 } 14 { 現地視察研修 } 15 総括 期末試験及び解説		
テキスト	プリント、PP スライド等を使用		
成績評価 の方法	小テスト・レポート・期末試験を実施する。 評価配分は以下のとおりとする。 期末試験(70%)、小テスト及びレポート（20%）、 授業態度など(10%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	飼料学 (専門選択・動物系)	担当教員	伊藤 香葉
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	飼料の役割を理解し、飼料作物の栽培・調製方法、各種飼料について特性や栄養価、家畜に給与する方法を学習する。		
授業内容	1回 飼料作物の特徴と栽培 2回 飼料作物の調製と保存 3回 飼料に求められる条件 4回 飼料の分類と種類 5回 単体飼料の種類と特徴 6回 配合飼料の種類と特徴 7回 飼料資源1 動物性飼料・穀類飼料 8回 中間レポート 9回 飼料資源2 マメ類、油実類飼料 10回 飼料資源3 油粕類、油脂類飼料 11回 飼料資源4 草本飼料、青刈り飼料作物 12回 飼料資源5 食品製造副産物・特殊飼料 13回 飼料設計1 CP、TDN等の飼料中栄養量の計算 14回 飼料設計2 家畜が求める要求量への充足率計算 15回 期末試験		
テキスト	「動物の飼料」(文永堂出版) 「家畜飼育の基礎」(社団法人 農山漁村文化協会) 「日本飼養標準」(中央畜産会)		
成績評価 の方法	小テスト・期末試験を実施する。 評価配分は以下のとおりとする。 期末試験(70%)、小テスト及びレポート(20%)、授業態度など(10%)		
備 考	適宜、プリント、スライドを使って、授業を行う。		

授業科目 (履修区分)	酪農・肉牛 (専門選択・動物系)	担当教員	井上 貢
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	酪農・肉牛の飼養や繁殖技術等に関する基礎知識及びこれら大家畜経営を取り巻く環境等について体系的に理解・修得し、畜産関係者として社会に踏み出すための基礎能力を養う。		
授業内容	1 畜産経営体を支援する千葉県内及び国内の機関、組織、団体 2 千葉県の畜産：酪農と肉牛の現状及び生産物の流通 3 乳牛・肉牛の品種と改良及び牛体の部位名称 4 乳牛・肉牛の一生 5 飼育方式と施設・整備 6 乳牛・肉牛の繁殖生理と家畜人工授精・受精卵移植技術 7 分娩管理、子牛・育成牛の飼育管理 8 搾乳牛の飼育管理と飼料設計 9 乳牛・肉牛の衛生と病気及び「家畜の飼養衛生管理基準」 10 自主学習（レポートによる課題提起と対応策） 11 肉牛の品種と改良及び千葉県産和牛の登録 12 肉牛の生理と飼育技術 13 肉牛の飼料給与（和牛繁殖雌牛、哺育～肥育牛） 14 畜産物価格安定制度、農場 HACCP 及び JGAP 認証制度の概要 15 期末試験		
テキスト	・「家畜飼育の基礎」（社団法人 農山漁村文化協会）		
成績評価 の方法	・授業態度、筆記試験 ・評価配分は以下のとおりとする。 期末試験(90%)、授業態度など(10%)		
備 考	・授業時に適宜プリントを配布する。		

授業科目 (履修区分)	養豚 (専門選択・動物系)	担当教員	本多 正隆
対象年次	農学科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業産出額が千葉県において上位の豚について、品種や特徴、生理等一般的な基礎的知識を習得し、養豚経営に必要な繁殖豚・子豚・肥育豚の飼養管理技術を学ぶ。		
授業内容	1回 豚の外貌の特徴、消化器と食性、習性と行動 2回 豚の一生、品種とその特徴 3回 改良目標と審査、登録 4回 系統造成、雑種利用 5回 飼育形態と豚舎構造 6回 子豚の生理的特徴、分娩時の管理 7回 哺乳、餌づけ、人工乳、離乳 8回 肉豚の飼育管理 9回 枝肉、格付け、肉質 10回 母豚の生理と飼育管理 11回 雄豚の飼育管理と交配 12回 妊娠と分娩 13回 衛生と病気 14回 期末試験 15回 試験解説		
テキスト	「新版家畜飼育の基礎」(社団法人農山漁村文化協会)		
成績評価の方法	定期試験 (70%)、小テスト (20%)、講義聴講態度 (10%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	養鶏 (専門選択・動物系)	担当教員	山田 真希夫
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	鶏の品種と特徴、栄養・生理等一般的な基礎的知識を習得し、養鶏経営に必要な飼養管理技術、衛生管理技術、生産物の特性、経営の考え方等について学ぶ。		
授業内容	1 概論（養鶏の産業的位置、鶏の体の特徴、習性と行動） 2 鶏の品種とその特徴、育種改良、鶏の一生 3 鶏の環境生理・生態、消化器の特徴と機能 4 鶏の栄養Ⅰ（栄養素、エネルギー代謝、飼料の種類と特徴） 5 鶏の栄養Ⅱ（ビタミン、ミネラル） 6 鶏の栄養Ⅲ（飼料設計・飼料計算） 7 自主学习（種卵の採取と孵化） 8 雛の生理と育雛・育成管理 9 採卵鶏の飼育形態と施設・機器 10 採卵鶏の管理（温度管理、光線管理、期別給与、AW※） 11 産卵生理（排卵から放卵まで） 12 生産物の特徴と利用、鶏卵の品質、卵質検査 13 鶏の衛生と病気 14 肉用鶏の生理と飼育技術 15 期末試験		
テキスト	「新版家畜飼育の基礎」（社団法人農村漁村文化協会） 日本飼養標準「家禽」		
成績評価 の方法	期末試験(70%)、提出レポート(20%)、聴講態度(10%)		
備 考	※AW：アニマルウェルフェア		

(4) 専攻実習

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (作物) (必修科目)	担当教員	藤井 雄樹 太田 和也
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	代表的な食用作物（水稻、ムギ類、マメ類、イモ類他）の栽培を通じて、食用作物の栽培技術、収穫調製方法、貯蔵方法等について学習する。 最新の農業技術（スマート農業等）など機械利用による省力化技術やGAPに関する知識を習得し、その活用方法を学ぶ。		
授業内容	1 水田作物（うるち米、もち米） （1）栽培計画立案 （2）育苗・施肥技術の習得 （3）水田での作業の流れの習得・病虫害防除方法の習得 （4）収穫・調製および貯蔵方法の習得 （5）耕うん等、次作に向けた水田管理と準備 2 畑作物（ラッカセイ、ダイズ、サツマイモ、トウモロコシ等） （1）栽培計画立案 （2）育苗・施肥技術の習得 （3）栽培管理（中耕培土、除草）・病虫害防除方法の習得 （4）収穫・調製（収穫、脱穀、脱莢、乾燥） （5）掃除、耕うん等、次作に向けた管理と準備 3 農産物生産工程管理方法 GAP認証経験を活かし、安全で効率の良い農産物の生産と農場運営方法を検討し、それを実践する。		
テキスト	必要により資料提供		
成績評価の方法	取り組む姿勢（70%）、技術・知識の習得状況（30%）		
備 考	参考図書 「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・「野菜ハンドブック」（千葉県農林技術会議） 「農作物病虫害雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（施設野菜） (必修科目)	担当教員	江口 菜 江澤 和哉
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	講義で学んだ知識をもとに、施設圃場においてトマト・キュウリ・メロン・イチゴ等の施設野菜のは種・育苗から収穫・出荷調製までの栽培管理及び施設環境の管理等、農業経営に必要な知識と技術を習得する。 農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。		
授業内容	1 野菜に関する知識の習得 (1) 施設野菜の分類と栽培方法 (2) 施設野菜の育苗と栽培管理 (3) 病虫害の診断と対処法 (4) 環境負荷に考慮した栽培方法 (5) スマート農業・環境制御技術 2 栽培管理技術の習得 (1) 果菜類（トマト・キュウリ・メロン・イチゴ等）の品種特性、肥培管理、病虫害防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。 (2) 葉茎菜類（コマツナ・ホウレンソウ等）の育苗管理、肥培管理を習得する。 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 学生ごとに圃場や作物の栽培管理の実践		
テキスト	適宜資料配布		
成績評価の方法	取り組む姿勢（80%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	参考図書 「野菜栽培の基礎」(社団法人 農山漁村文化協会)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」(千葉県農林水産部安全農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（露地野菜） (必修科目)	担当教員	山下 雅大 池邊 慧祐
対象年次	農学科 2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	野菜園芸学等の講義で学んだ知識を基礎にして、ほ場における実際栽培を学ぶ。 主要な露地野菜と無加温ハウスで栽培される野菜の生理生態や肥培管理及び出荷調製技術等を理解する。		
授業内容	1 野菜に関する知識の習得 (1)野菜の分類と栽培方法 (2)野菜の育苗と栽培管理 (3)病害虫の診断と対処法 (4)環境負荷に考慮した農業 (5)野菜の収支計算と経営の基礎 2 栽培管理技術の習得 (1)果菜類、豆類（トマト・キュウリ・スイカ・トウモロコシ・ソラマメ等）の品種特性、肥培管理、病害虫防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。 (2)葉茎菜類（ネギ・キャベツ・ハクサイ・ブロッコリー・レタス等）の育苗管理、肥培管理を習得する。 (3)軟弱野菜（ホウレンソウ・コマツナ等）の周年栽培技術（雨よけやトンネル栽培）を習得する。 (4)根菜類（ダイコン・ニンジン・サトイモ等）の品種特性やマルチ利用効果の理解を深める。 3 知識や技術の実践力の体得 学生各自による圃場や作物の栽培管理の実践 4 GAPやスマート農業等に対する理解促進、効率的かつ適正な作業環境・作業方法の習得		
テキスト	適宜資料配布		
成績評価の方法	取り組む姿勢（80%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	参考図書：「野菜栽培の基礎」、「新野菜づくりの実際（第2版）」（社団法人 農山漁村文化協会）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（果樹園芸） (必修科目)	担当教員	吉田 明広 井上 雄樹
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	果樹園芸品目の年間を通した実際の栽培手法を学ぶ。 主要な落葉果樹と常緑果樹の生理生態や栽培管理及び剪定等の技術等を理解する。 農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を実践し、習得する。		
授業内容	1 果樹に関する知識の習得 (1) 果樹の栽培方法 (2) 果樹の繁殖法と果実の品質管理 (3) 病害虫の診断と対処法 (4) 農業生産工程管理、スマート農業機械 2 栽培管理技術の習得 (1) 落葉果樹（ナシ・ブルーベリー・ブドウ等）の品種特性、施肥管理、病害虫防除、せん定等の基本的な技術習得と理解を進める。 (2) 常緑果樹（ミカン・ビワ等）の品種特性、施肥管理、病害虫防除、せん定などの基本的な技術習得と理解を進める。 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 卒論課題品目の栽培管理の実践 (2) その他の果樹の栽培管理の実践（共同管理）		
テキスト	適宜資料配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢(実習ノート含む) (80%)、技術・知識の習得状況 (20%)		
備 考	・実習ノートを適宜提出し、実習の理解度について確認する。 ・参考図書 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」 (千葉県農林水産部環境農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（花き園芸） (必修科目)	担当教員	田川 和泉 永山 春菜 田川 真子
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単位数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	花き栽培における基幹作物の栽培をとおして、栽培管理の基礎、生理生態的特徴、温室などの施設管理の基本を学び、花き栽培の実践的能力を養う。また、スマート農業技術やMPS-ABC の理念を学習する。		
授業内容	切り花及び鉢花の実習を主に実施する。また卒論で扱う植物以外にも、多くの花きに接するとともに、それらの花きを栽培することにより花き生産の基本的事項を習得する。 1 花き栽培に関する知識の習得 (1) 名称・分類 (2) 栽培計画 (3) 施肥設計 (4) 播種・育苗管理 (5) 病虫防除技術 (6) 温室管理技術 (7) 灌水方法 (8) 除草 2 効率的な出荷調整作業の習得 3 生産した花きを活用した装飾技術の習得 4 試験・調査方法の習得 5 スマート農業技術の習得 6 MPS-ABC 認証をとおした環境負荷低減		
テキスト	適宜資料配付		
成績評価の方法	取組み姿勢、技術・知識の習得状況		
備考	参考図書 「草花栽培の基礎」「花卉園芸学の基礎」「花の小事典」「農業技術体系」(社団法人農山漁村文化協会)		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（畜産） (必修科目)	担当教員	伊藤 香葉 吉田 早希
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	家畜飼養管理作業を通じて、自らがやるべきことを考え、問題を解決する能力を養うことを目標とする。また、スマート畜産機器やHACCPに関する知識を習得しその活用方法を学ぶ。		
授業内容	1 家畜、家禽の飼養管理 (1) 飼料設計及び飼料調整 (2) 飼料給与 (3) 畜舎清掃及び整理整頓 (4) 繁殖管理 発情観察、交配、分娩（牛、豚） (5) 搾乳（牛） (6) 集卵、鶏卵処理 (7) 堆肥生産 (8) 出荷作業 (9) 簡単な畜舎補修 (10) 草地管理及び環境美化 (11) 農場HACCPの取り組み 2 自給飼料栽培、調製 (1) 耕耘、播種、除草等の栽培管理 (2) 収穫、梱包等の飼料調製作業 3 試験に関係する調査 (1) 体重測定、体尺測定、卵質検査、飼料測定、牛行動モニタリングシステムを活用した行動調査等		
テキスト	適宜資料配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（80%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	「家畜飼育の基礎」（（一般社団法人 農山漁村文化協会）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（情報経営） (必修科目)	担当教員	菅澤 太地
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報を活かし、継続的な農業経営を行っていくための考え方、手法を学ぶとともに、圃場にて農業経営には欠かせない基礎的な栽培技術を習得する。 「現状の分析や計画、実行し、目的を達成していく。失敗したら何が原因だったのか反省し評価する。」といった、会社におけるマネジメント層に必要な主体性を身に付ける。		
授業内容	1 情報、経営に関する知識の習得 (1) 農業経営に関する情報の種類 (2) 農産物直売所の現状と課題 (3) 生産工程管理の基本と5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の実践 (4) スマート農業の種類と活用 2 情報収集の手法と処理技術の習得 (1) 農業経営に必要な情報の集め方 (2) 情報処理やプレゼンテーション資料の作成方法 (3) 農業経営の収益性、生産性の分析 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 主要品目の栽培技術習得と経営効果の分析		
テキスト	適宜資料配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、知識（20%）、習熟度（20%）		
備 考	参考図書：「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議） 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部環境農業推進課） 「野菜経営収支試算表」（千葉県農林水産技術会議）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（生物工学） (必修科目)	担当教員	中田 菜々子
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	微生物及び植物の培養、順化、栽培を通して、技術の習得、計画の考案、栽培技術の基礎を身に付ける。また、各自の卒業論文テーマに合わせた試験研究を実施し、調査方法等を習得する。		
授業内容	1 実験器具及び実験室の正しい使用方法の習得 2 培地、試薬類の設計方法及び作成方法の習得 3 無菌操作技術の習得 4 植物組織培養技術の習得 5 実験植物等の栽培技術の習得 6 文献等情報収集方法の習得		
テキスト	実習内容によって適宜関連文献等を配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（50%）、知識・習熟度（50%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（食品加工） (必修科目)	担当教員	宮城 美紀子
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	食品加工では、農作物の生産（1次産業）だけではなく、製造・加工（2次産業）、販売（3次産業）にむけて取り組み、農産物に新しい付加価値をつけ、農業所得の向上に向ける6次産業化への研究を行い、新しい地域産業を創出する取り組みを目指す。そのため、圃場で栽培した農産物を教材として、その加工特性、加工貯蔵技術を取得する。		
授業内容	学校農産物や地域で生産された農産物を利用し、加工特性や加工貯蔵技術を学び、地域農業の現状や問題点を把握し、適した加工方法などを学ぶ。 1 農業経営方法や運営方法について興味関心を高め、課題を見つけ、解決策に取り組む。 2 地域農業の現状や問題点を把握し課題解決に取り組む。 3 食品加工圃場を通じて農業の実態について学び、基本的な野菜栽培技術を習得する。 4 食品加工技術の向上 (1) 農産加工原料の特性と加工方法の習得 (2) 貯蔵の技術習得 (3) 生産工程管理の基本と5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の実践		
テキスト	適宜資料配布 「食品製造」（実教出版） 「新食品成分表」（東邦出版）		
成績評価の方法	取り組む姿勢（70%）、技術・知識の習得状況（30%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（土壌肥料） (必修科目)	担当教員	高田 伯約
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	土壌肥料概論及び土壌・肥料学等の講義で学んだ知識を基礎にして、農作物の栽培における効率的で実効性のある土壌管理等を学ぶ。 環境保全型農業の取組を理解し、施肥技術を中心とした基礎的な栽培管理技術を習得することを目標とする。		
授業内容	1 作物栽培管理、土壌管理 (1) 栽培計画及び施肥設計 (2) 調査項目の設定、雑草管理 (3) 病害及び虫害対策 (4) 収量調査、土壌調査、その他の調査（食味調査等） (5) 栽培後の管理 2 環境保全型施肥技術の理解 3 野菜の基礎的栽培技術の修得 4 施肥法と品質に及ぼす影響の理解 5 卒業論文に関する調査 (1) 生育調査 (2) 病虫害防除 (3) 収穫調査 (4) 土壌分析		
テキスト	適宜資料配布		
成績評価 の方法	取組姿勢（50%）、知識・習熟度（50%）		
備 考	参考図書 「野菜ハンドブック」（千葉県農林技術会議） 「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」 （千葉県農林水産部安全農業推進課）、 「農業技術体系」、「土と施肥の新技术」、「みんなの有機農業技術大辞典」 （社団法人 農山漁村文化協会）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (病虫害) (必修科目)	担当教員	清水 敏夫
対象年次	農学科 2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	15単位	時 間 数	450時間
教育目標	病虫害に関する知識向上のため、病虫害専攻教室ほ場において実際の栽培や病虫害及び天敵の発生生態、病虫害管理法等を学ぶ。 また、各自の各卒業論文のテーマに合わせた調査研究を実施し、その取りまとめを行う。		
授業内容	1 病虫害・天敵等に関する知識の習得 (1) 農作物の病虫害の診断について (2) 農作物の病虫害の生理生態について (3) 農作物害虫と天敵の見分け方、天敵の分類、生態等について (4) 総合的病虫害・雑草管理 (IPM) の考え方について (5) IPM を念頭に置いた病虫害管理技術とその実践方法について 2 農作物の栽培管理技術、病虫害や天敵の増殖技術等の習得 (1) 農作物の播種、育苗技術の習得 (2) 農作物の栽培技術及び収穫方法の習得 (3) 農作物の病虫害管理技術の習得 (4) 病虫害や天敵の飼育・増殖方法等の習得 3 試験方法及び調査方法の習得と実践 試験設計、試験区の設定、調査方法、データの集計方法、解析方法、プレゼンテーション方法の習得及び実践 4 スマート農業等に対する理解促進 5 地域連携による商品開発の方法及び実践		
テキスト	各自の試験内容に関係する図書及び文献 (学術論文等)		
成績評価 の方法	取り組む姿勢 (50%)、知識・習熟度 (50%)		
備 考			

(5) 卒業論文

授業科目 (履修区分)	卒業論文 (作物) (必修科目)	担当教員	藤井 雄樹 太田 和也
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	水稻、麦、マメ類、イモ類などの代表的な食用作物について、課題設定し、栽培を行う。それにより作物の生理生態を理解し、課題解決のための調査・研究を行い、科学的な解析手法を学ぶ。さらに卒論発表と論文まとめを通じ、資料作成や情報収集、プレゼンテーション能力を養う。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案 (品目、内容の検討) 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集 (環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病虫害発生状況等) 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル作成と展示 (11月中旬) 8 卒業論文発表会 (12月上旬) 9 卒業論文提出 (2月中旬)		
テキスト	適宜資料を配布する		
成績評価の方法	卒業論文 (50%)、卒論発表会 (30%)、取り組む姿勢 (20%)、		
備 考	参考図書 「作物栽培の基礎」(社団法人農山漁村文化協会) 「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・ 「野菜ハンドブック」(千葉県農林技術会議) 「農作物病虫害雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」 (千葉県農林水産部安全農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	卒業論文（施設野菜） (必修科目)	担当教員	江 口 菜 江 澤 和 哉
対象年次	農学科 2 年	期 別	令和 8 年度 通年
単 位 数	4 単位	時 間 数	1 2 0 時間
教育目標	卒業論文の作成に当たり、自ら課題を設定し、栽培計画を作成する。その計画に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、論文としてまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（品目、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病虫害発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル作成 8 卒論発表会（12 月上旬） 9 卒業論文提出（2 月上旬） 10 卒業論文進路報告会（2 月中旬）		
テキスト	各自の卒論内容に適した資料を配付する。		
成績評価 の方法	取り組む姿勢 (60%)、卒業論文 (20%)、卒論発表会 (10%)、パネル展示 (10%)		
備 考	参考図書 「野菜栽培の基礎」（社団法人農山漁村文化協会）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	卒業論文（露地野菜） (必修科目)	担当教員	山下 雅大 池邊 慧祐
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	露地野菜の生理生態や栽培の基礎及び出荷調製技術などを理解する。 卒業論文の作成にあたっては、課題を設定し、栽培計画を作成する。課題に基づいた調査・研究を行い、問題解決学習の一環として観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、経営的な視点を取り入れながら論文としてまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（品目、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病虫害発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル展示 8 卒論発表会（12月上旬） 9 卒業論文提出（2月上旬） 10 卒業論文進路報告会（2月中旬）		
テキスト	適時プリントを配布する		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、卒業論文（20%）、卒論発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考	参考図書 「野菜栽培の基礎」、「新野菜づくりの実際（第2版）」（社団法人 農山漁村文化協会）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	卒業論文（果樹園芸） (必修科目)	担当教員	吉田 明広 井上 雄樹
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	卒業論文の作成に当たり、自ら課題を設定し、栽培計画を作成する。その課題に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、論文としてまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（品目、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル展示 8 卒論発表会（12月上旬） 9 卒業論文提出（2月上旬） 10 卒業論文進路報告会（2月中旬）		
テキスト	各自の卒論内容に適した資料を配付		
成績評価の方法	取り組む姿勢(調査ノート含む) (60%)、卒業論文 (20%)、卒論発表会 (10%)、社稷祭パネル展示 (10%)		
備 考	・教職員の定める各提出物の締め切りを遵守すること。 ・雨天時を除き、実習時間中に論文執筆作業は行わない。 ・参考図書 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」 (千葉県農林水産部環境農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	卒業論文（花き園芸） (必修科目)	担当教員	田川 和泉 永山 春菜 田川 真子
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4 単位	時 間 数	1 2 0 時間
教育目標	卒論対象の花きの栽培管理を通して基本技術を習得することに加え、自分で考えて課題を進め、問題解決する能力を養成することを目標とする。 卒論作成及び発表にあたり、データの取りまとめや発表会資料の作成を行うことにより発表方法を学び対外的な説明能力を養う。		
授業内容	1 対象花きの選定及び課題の決定 2 調査、試験設計の立案 3 参考文献の調査及び読み込み 4 対象花きの栽培管理、調査、データ収集 5 調査結果の分析、まとめ、考察 6 卒論中間報告（9月） 7 卒論パネル発表（11月） 8 卒論発表会（12月上旬） 9 卒業論文提出（2月上旬） 10 卒業論文受理式（2月中旬）		
教 科 書	適宜資料配付		
成績評価 の方法	卒論への取り組み姿勢や理解度、中間発表、パネル展示、成果発表会		
備 考	参考図書 「草花栽培の基礎」、「花卉園芸学の基礎」、「農業技術体系」（社団法人農山漁村文化協会）、その他必要に応じて品目別に専門資料を配付		

授業科目 (履修区分)	卒業論文 (畜 産) (必修科目)	担当教員	伊藤 香葉 吉田 早希
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	調査対象家畜・家禽の飼養管理作業や飼料作物の栽培管理作業等を通じて、自らがやるべきことを考え、適時に調査を行い、問題を解決する能力を養うことを目標とする。 卒論をまとめる作業を行いながら、測定データを読む力、パソコン操作の習熟に努める。		
授業内容	1 対象家畜・家禽・飼料作物及び課題の設定 2 試験設計立案 (材料及び方法、調査項目の検討) 3 参考文献の調査、読み込み 4 対象家畜・家禽・作物の飼育・栽培管理及び調査、データ収集 5 調査結果のまとめ、分析 6 卒論発表会 (12月上旬) 7 卒業論文提出 (2月上旬) 8 卒業論文報告会 (2月中旬)		
テキスト	適宜資料配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢(60%)、卒業論文(20%)、卒論発表会(10%)、パネル展示(10%)		
備 考	参考図書 「家畜飼育の基礎」(社団法人 農山漁村文化協会) 「日本飼養標準」(中央畜産会) 「畜産センター研究報告書」(千葉県畜産総合研究センター)		

授業科目 (履修区分)	卒業論文（情報経営） (必修科目)	担当教員	菅澤 太地
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	農業経営において、基礎的な情報収集・分析手法を習得する。また、経営改善を図る必要な考え方や能力を育てる。 卒業論文については、課題設定、調査手法、スケジュール管理、分析方法を理解し、パソコン操作を習熟させてデータを取りまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 調査設計立案（対象、方法の検討） 3 調査期間、対象、データの取得方法、分析方法の設定 4 調査、データの収集、知見 (売上、費用、損益分岐点、アンケート結果集計 等) 5 調査結果のまとめ、分析 6 パネル展示 7 卒論発表会（12月上旬） 8 卒業論文提出（2月上旬） 9 卒業論文進路報告会（2月中旬）		
テキスト	各自の課題内容に関連した資料を配布する。		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、卒業論文（20%）、卒論発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	卒業論文（生物工学） (必修科目)	担当教員	中田 菜々子
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	対象植物及び培養物の栽培管理、交配及び選抜等の育種作業を通して基本技術を習得し、自ら考えて課題を解決する能力を養うことを目標とする。卒業論文作成及び発表に当たり、データを解析し考察することに努め、研究成果を説明する能力を向上させる。		
授業内容	1 課題の設定 2 調査及び実験計画立案 3 試験区設定 4 実験データの取り方とまとめ方 5 パネル展示 6 卒業論文発表会（12月上旬） 7 卒業論文提出（2月上旬） 8 卒業論文進路報告会（2月中旬）		
テキスト	資料を提供し、適時紹介する		
成績評価の方法	取り組む姿勢（60%）、パネル展示（10%）、卒業論発表会（10%）、卒業論文（20%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	卒業論文（食品加工） (必修科目)	担当教員	宮城 美紀子
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	食品学、食品加工の基礎を理解し、六次産業化に向け取り組みを行う。 卒業論文の作成に当たっては、課題を設定し、進行計画を作成する。課題に基づいて調査・研究を行い、農産物に付加価値をつけ農業生産者が実際に活用できる手法を検討し論文としてまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（内容の検討） 3 加工実験内容設定 4 試験栽培、加工 5 調査、データの収集、知見 （食べ方、使用方法の提案・栽培状況・収量・消費動向状況等） 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル展示 7 パネル展示 8 卒論発表会（12月上旬） 9 卒業論文提出（2月上旬） 10 卒業論文進路報告会（2月中旬）		
テキスト	適宜資料配布 「食品製造」（実教出版） 「新食品成分表」（東邦出版） 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）		
成績評価 の方法	取り組み姿勢（60%）、卒業論文(20%)、卒論発表会(10%)、パネル展示(10%)		
備 考	参考図書		

授業科目 (履修区分)	卒業論文（土壌肥料） (必修)	担当教員	高田 伯約
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	卒業論文の作成を通じて、課題設定や分析方法等を理解し、知識の深化を図るとともに、持続可能な農業を目指した肥培管理技術等を習得する。 課題解決活動を通じて、土壌診断に必要な分析手法と土壌・施肥改善技術及びそれらの技術が農作物の収量・品質へ及ぼす影響等を理解する。		
授業内容	1 対象作物・肥料等及び課題設定 2 試験設計（材料及び方法、調査項目の検討） 3 参考文献の調査、読み込み 4 対象作物の栽培管理及び調査、データ収集 5 土壌調査、調査結果のまとめ、分析 6 中間取りまとめ 7 パネル展示 8 卒論発表会（12月上旬） 9 卒業論文提出（2月上旬） 10 卒業論文進路報告会（2月中旬）		
テキスト	なし		
成績評価 の方法	取組姿勢及び理解度(60%)、卒業論文(20%)、パネル展示(10%) 卒業論文発表会(10%)		
備 考	参考図書 「農業技術体系」、「土と施肥の新技术」、「みんなの有機農業技術大辞典」 (社団法人 農山漁村文化協会) 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議） 「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」 (千葉県農林水産部安全農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	卒業論文（病害虫） (必修科目)	担当教員	清水 敏夫
対象年次	農学科2年	期 別	令和8年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	病害虫に関する知識の向上と研究手法の習得を図るとともに、成果のとりまとめに関する能力を醸成する。 卒業論文の作成にあたっては、課題を設定し、研究計画を立てる。課題に対応した調査・研究を行い、結果を適切に解析することにより、科学的な分析力を習得し、成果を論文としてまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（品目、内容等の検討） 3 試験区設定 4 試験実施 5 調査データの収集及び知見の蓄積（病害虫及び天敵の発生状況、環境条件、生育・収量・品質調査等） 6 調査結果のまとめ、データ解析 7 パネル展示 8 卒論発表会（12月上旬） 9 卒業論文提出（2月中旬） 10 卒業論文進路報告会（2月下旬）		
テキスト	各自の試験内容に関係する図書及び文献（学術論文等）		
成績評価の方法	取り組む姿勢（60%）、卒業論文（20%）、卒論発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考	参考図書 「農業技術体系 野菜の基礎知識」（社団法人 農山漁村文化協会） 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議） 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」、「千葉県主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）		